

marantz® AV Surround Receiver
NR1403

取扱説明書

ご使用になる前に

ご購入いただきありがとうございます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

○記号は禁止の行為であることを告げるものです。



電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



電源プラグを
コンセント
から抜く

万一異常が発生したら、 電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落とししたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。



必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近 にはほこりや金属物が付着してい るときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因となります。



禁止

内部に水などの液体や異物を入 れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



水ぬれ
禁止

水滴や水しぶきのかかるところ に置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災・感電の原因となります。



分解禁止

ねじを外したり、 分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。



接触禁止

使用中、使用直後に高温となる部 分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの面には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。



高温注意



禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



水場での
使用禁止

風呂・シャワー室では 使用しない

火災・感電の原因となります。



水ぬれ
禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・ コップ・化粧品・薬品や水など が入った容器、および小さな金 属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず実施

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。



禁止

根元まで差し込んでゆりみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。



必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでからおこなう

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従っておこなってください。

また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



必ず実施

電池を使用するときは

- 極性表示に注意し、表示のとおり正しく入れる。
- 指定以外の電池は使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときはお住まいの地域の条例に従って処理してください。



禁止

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

次のような場所には置かない

- 火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところ



必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止

- おお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけた上、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する



禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。パランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。



注意

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に	2
安全上のご注意	2
目次	4
使用上のご注意	5
付属品を確認する	5
本機の特長	6

基本編	7
接続のしかた	8
知っておいてほしいこと	8
HDMI 接続に対応している機器を接続する	10
HDMI 接続に対応していない機器を接続する	15
電源コードを接続する	23
設定のしかた	24
スピーカーを設定する (Audyssey® セットアップ)	24
再生のしかた (基本操作)	31
知っておいてほしいこと	31
ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する	32
CD プレーヤーを再生する	32
FM/AM 放送を聴く	33
リスニングモードを選ぶ (サウンドモード)	41
リスニングモードを選ぶ	41

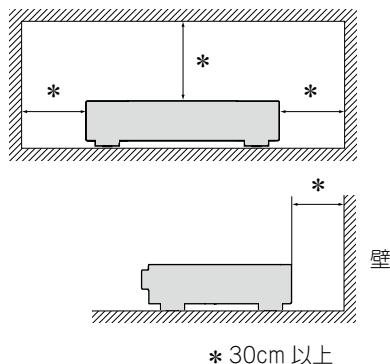
応用編	46
スピーカーの設置や接続のしかた (応用)	47
スピーカーを設置する	47
スピーカーを接続する	48
接続のしかた (応用接続)	52
リモートコントロール端子に接続する	52
再生のしかた (応用操作)	53
HDMI コントロール機能	53
スリープタイマー機能	54
デュアルバックアップメモリー機能	55
フロントキーロック機能	55
リモートロック機能	56
各種メモリー機能	57
詳細設定のしかた	58
メニュー 一覧	58
メニュー画面の表示例	59
テレビ画面とディスプレイの表示について	60
文字入力について	61
オーディオ	62
ビデオ	68
入力ソース	71
スピーカー	75
一般	79

情報編	82
各部の名前	83
フロントパネル	83
ディスプレイ	84
リアパネル	85
リモコン	86
その他の情報	88
登録商標について	88
サラウンド	89
映像信号とモニター出力の関係	92
用語の解説	93
故障かな?と思ったら	95
マイコンの初期化	97
保証と修理について	98
主な仕様	99

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は十分に離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ペンシンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となる場合があります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット

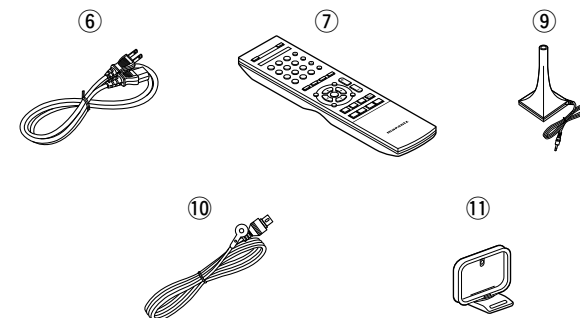


- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 簡単セットアップガイド	1
② CD-ROM(取扱説明書)	1
③ 安全にお使いいただくために	1
④ 保証書(梱包箱に貼り付けています)	1
⑤ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内	1
⑥ 電源コード	1
⑦ リモコン(RC018SR)	1
⑧ 単4形乾電池	2
⑨ セットアップマイク(ACM1HB)	1
⑩ FM室内アンテナ	1
⑪ AM室内アンテナ	1



本機の特長

ディスクリート回路構成による全 5 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載(実用最大出力 50W × 5 チャンネル、8 Ω)

本機には、オリジナル音源を忠実にサウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサウンド再生を実現しています。

基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー

テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続など基本的な設定がおこなえます。

操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかがわかりやすくなり、操作性を向上させています。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備(入力：6 系統、出力：1 系統)

本機には 6 系統の HDMI 入力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子搭載機器との接続ができます。

HDMI(3D、ARC、^{ディープ・カラー}Deep Color、“x.v.Color”、^{オート・リップ・シンク}Auto Lip Sync)および HDMI コントロール機能対応(19 ページ)

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D ビデオ信号を、3D 対応テレビに出力することができます。また、本機とテレビ*を接続している HDMI ケーブルを経由してテレビの音声の本機で再生する ARC(^{オーディオ・リターン・チャンネル}Audio Return Channel)機能にも対応しています。

* テレビも ARC 機能に対応している必要があります。

^{エム・エクスポート}M-XPort(^{マランツ・エクステンション・ポート}marantz-eXtension Port)(19 ページ)

拡張性に優れたマランツ独自の ^{エム・エクスポート}M-XPort を搭載しました。
^{フル・トランス}ワイヤレスレシーバー RX101(別売り)を接続して Bluetooth 機器(デジタルオーディオプレーヤー、携帯電話など)の音楽ファイルを本機で再生できます。

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

- 接続のしかた  [8 ページ](#)
- 設定のしかた  [24 ページ](#)
- 再生のしかた（基本操作）  [31 ページ](#)
- リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）  [41 ページ](#)

接続のしかた

知っておいてほしいこと

本機をお使いになる前に接続をしてください。

本機とお手持ちの映像機器の性能を十分に発揮してより高画質な映像再生と、より高音質のオーディオ再生ができるホームシアターを実現するために、本機とテレビ、本機と各映像機器との接続には HDMI ケーブルをお使いください。

□HDMI 接続に対応している機器

接続する映像機器が HDMI 接続に対応していない場合は次の接続をおこなってください。

□HDMI 接続に対応していない機器

本機では、DIGITAL AUDIO IN 端子に割り当てるソースを変更することができます。各機器の接続ページ内の **入力端子の設定** に記載している端子が変更できる端子です。端子の割り当てについての詳しい説明は「端子に割り当てる入力ソースの変更について」(15 ページ)を、設定方法は「デジタルオーディオ端子の割り当て」(72 ページ)をそれぞれご覧ください。

ご注意

- メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。
- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (8 ページ) メニューを操作中は、“セットアップアシスタント” メニューの指示に沿って接続してください。(“セットアップアシスタント” メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- “セットアップアシスタント” (8 ページ) メニューを操作中は、接続する機器の電源をオフにしてください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

□ HDMI 接続に対応している機器

 TV	 11 ページ	 CBL/SAT	 13 ページ	 DVD	 13 ページ
 Blu-ray	 13 ページ	 GAME	 13 ページ	 AUX	 13 ページ
 MEDIA PLAYER	 13 ページ				

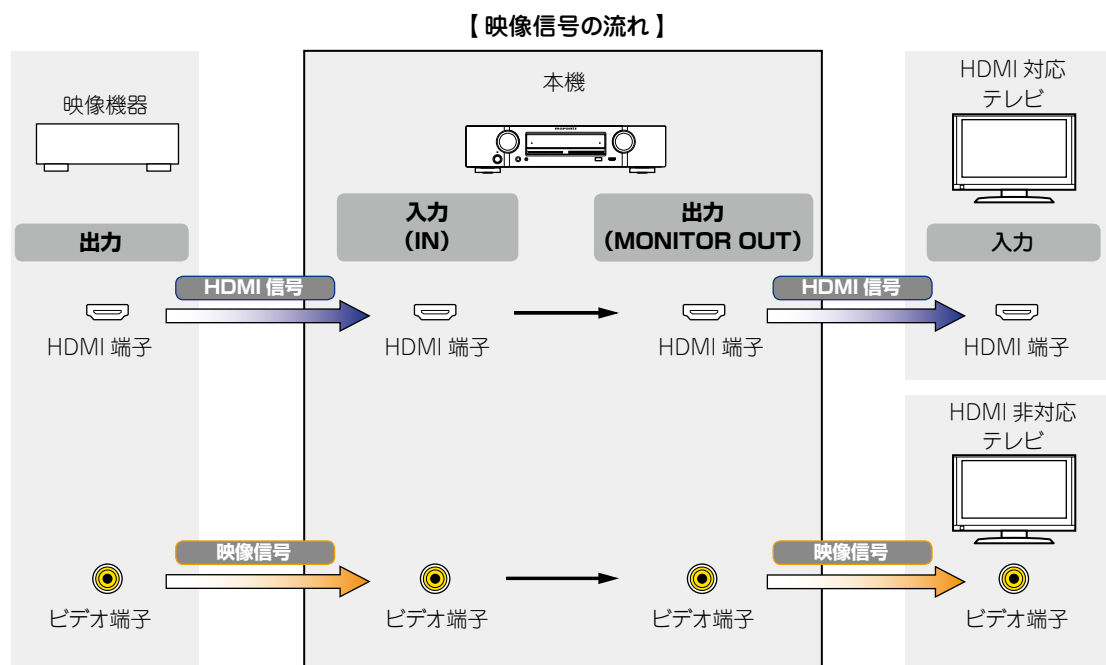
□ HDMI 接続に対応していない機器

 TV	 16 ページ	 CBL/SAT	 17 ページ	 DVD	 18 ページ
 Blu-ray	 19 ページ	 CD	 19 ページ	 TUNER	 21 ページ
 M-XPoRT	 22 ページ				

□ その他

 SPEAKER	 48 ページ	 AC IN	 23 ページ
--	--	--	--

映像信号とモニター出力の関係



HDMI 対応テレビの解像度は、メニューの“モニター情報” (81 ページ) で確認できます。

ご注意

- メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。
- HDMI 信号はデジタル信号です。HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。また、アナログ信号を HDMI 信号に変換することもできません (92 ページ)。

HDMI 接続に対応している機器を接続する

本機には HDMI 対応機器を 7 台(6 入力 / 1 出力) まで接続できます。

本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。HDMI ケーブルでの接続には、ほかの接続方法にはない次のメリットがあります。

- **音声と映像をデジタル信号で伝送することにより高品位な再生を実現**

アナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dts-HD、Dts-HD Master Audio)の伝送ができます。

また、HDMI 接続では機器間の再生に必要な情報のやり取りもおこなわれます。それらの情報を利用して著作権保護、テレビの解像度などの情報の認識、ARC 機能、HDMI コントロール機能などを実現しています。

- **音声信号と映像信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送**

従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。

- **HDMI コントロール機能による相互コントロール**([153 ページ](#))

HDMI 接続している本機と HDMI 機器の電源、音量、入力切り替えなどの操作を連動しておこなうことができます。

- **その他に、3D 映像再生、^{コンテンツ・タイプ}Content Type、ARC 機能など、映像や音声に関する機能に対応しています**([14 ページ](#))。



- HDMI 規格にはバージョンがあります。バージョンごとに対応できる機能や性能が異なります。本機は HDMI 規格の ARC 機能や 3D 再生機能に対応しています。これらをお楽しみいただくためには、本機に接続する HDMI 機器も同じ規格であることが必要です。本機に接続する機器の HDMI 規格のバージョンについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては HDMI 接続での音声入力に対応していないものがあります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

□ **本機とテレビを HDMI 接続する前に** ([111 ページ](#))

□ **本機とテレビを HDMI 接続する** ([112 ページ](#))

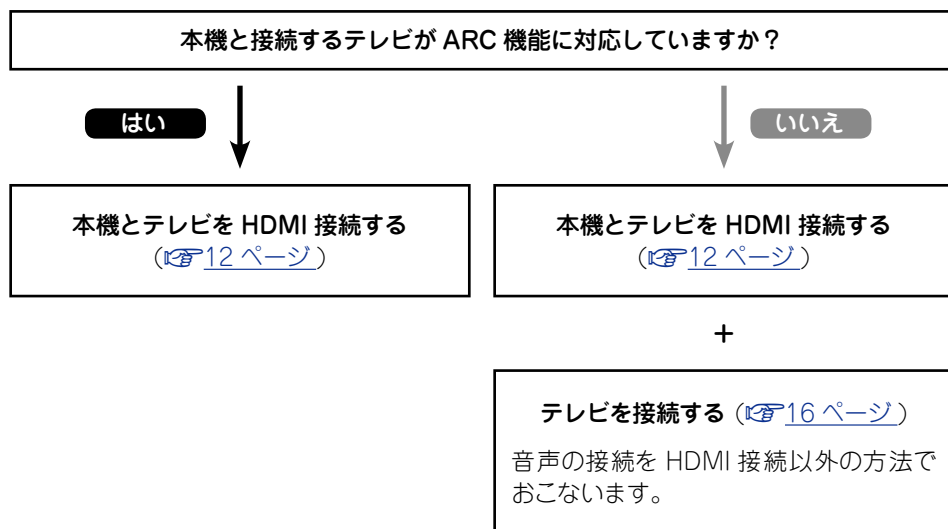
□ **本機と映像機器を HDMI 接続する** ([113 ページ](#))

□ **HDMI 機能** ([114 ページ](#))

□ **HDMI 接続に関する設定** ([114 ページ](#))

本機とテレビを HDMI 接続する前に

本機と HDMI 対応のテレビを接続する方法は 2 とおりあります。
お手持ちのテレビに合わせた接続をおこなってください。



オーディオ・リターン・チャンネル ARC (Audio Return Channel) 機能について

テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

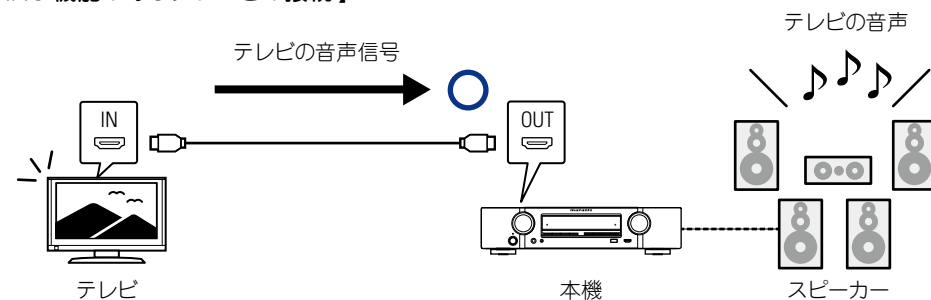
ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。



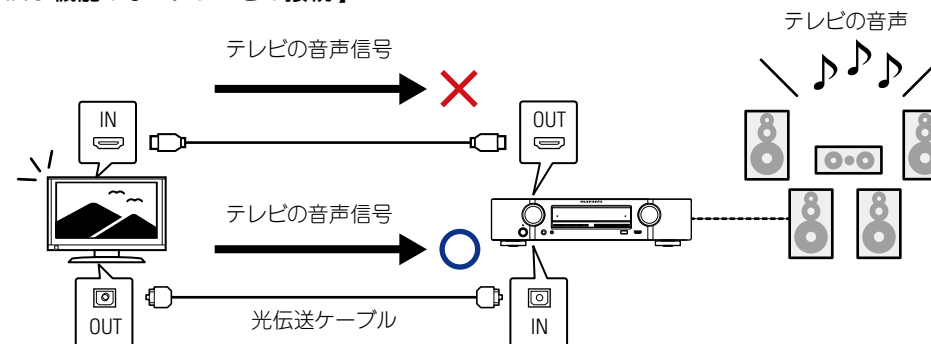
ARC 機能を使用するときは、HDMI 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

テレビ側の接続や設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

【ARC 機能のあるテレビとの接続】

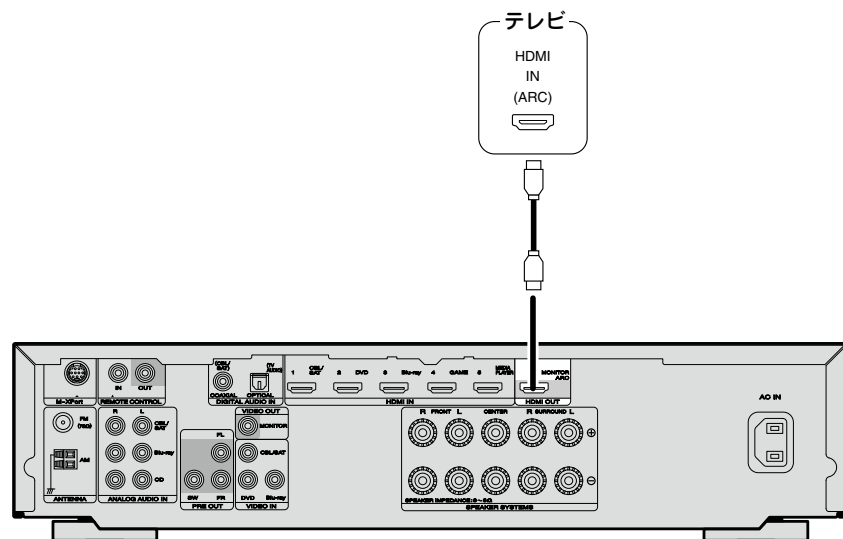
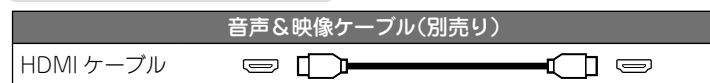


【ARC 機能のないテレビとの接続】



本機とテレビを HDMI 接続する

接続に使用するケーブル



- プレーヤーの解像度をテレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみテレビに出力します。「テレビを接続する」([16 ページ](#))の音声接続をおこなってください。

ご注意

- HDMI 出力端子からの音声信号(サンプリング周波数、チャンネル数など)は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。
- 本機を ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルのほかに音声ケーブルが必要になります。接続方法は、「テレビを接続する」([16 ページ](#))をご覧ください。また、ARC 機能については、「ARC (Audio Return Channel) 機能について」([11 ページ](#))をご覧ください。

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

デジタル信号による映像伝送には、DVI-D(Digital Visual Interface)方式もあります。これは、主にパソコン用に開発されたもので、一部の AV 機器(プロジェクターなど)にも搭載されています。本機の HDMI 映像信号を DVI-D 映像入力対応の機器に出力する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。HDMI 映像信号を DVI 信号に変換します。

DVI-D 端子ではデジタル信号の高品位伝送はできますが、機器間によってはコピーガードなどの問題で正しく動作しない場合があります。

ご注意

- 本機を DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。「テレビを接続する」([16 ページ](#))の音声接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

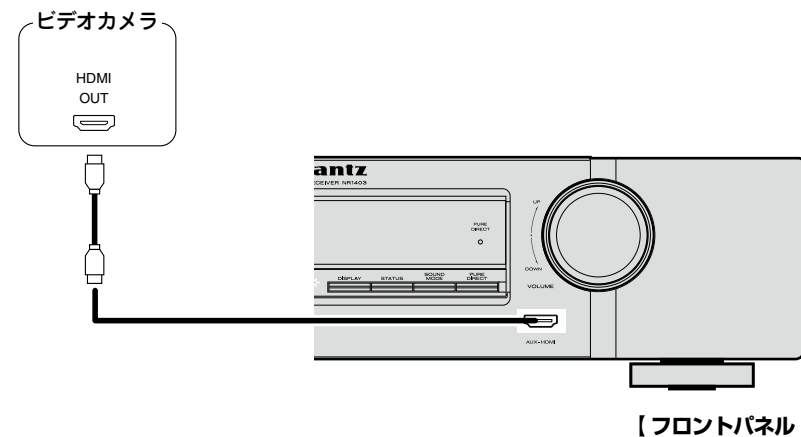
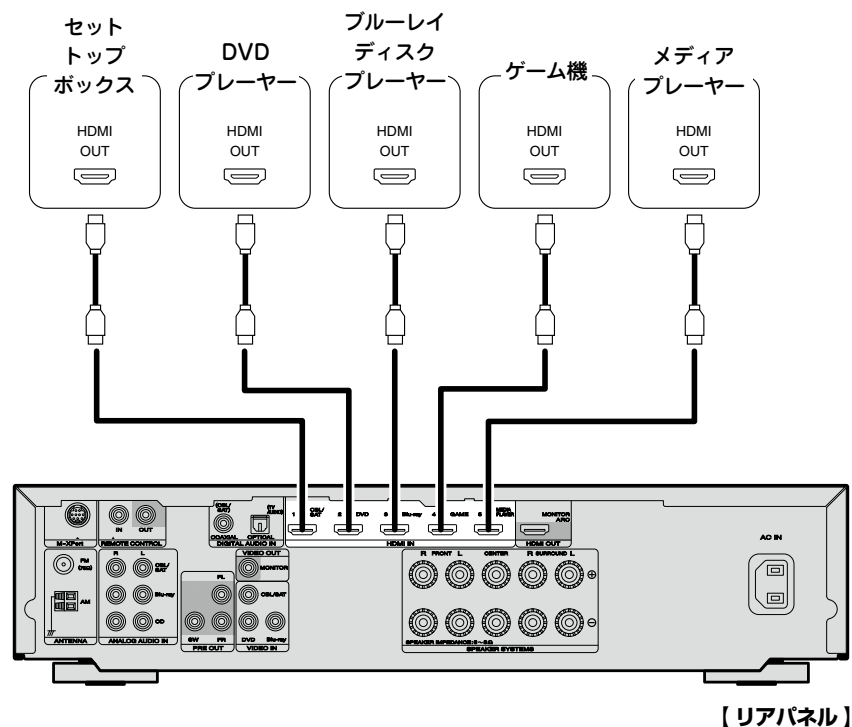
本機と映像機器を HDMI 接続する

接続に使用するケーブル

音声&映像ケーブル(別売り)

HDMI ケーブル

- HDMI とは、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。



- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続することをおすすめします。
- 本機を Deep Color 機能対応の機器と接続する場合は、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度をテレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。

HDMI 機能

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

□3D 機能

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ご注意

- 3D 映像を再生するときは、本機の取扱説明書と一緒に 3D 映像機器の取扱説明書もご覧ください。
- 3D ビデオ信号を再生中にメニューの操作をおこなうと、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 3D ビデオ信号の再生中は、状態表示画面を表示しません。
- 3D 情報がない 3D 映像を入力した場合でも、本機のメニュー画面および状態表示画面を重ねて表示できます。
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像へ変換した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面は正しく表示できません。本機のメニュー画面および状態表示画面を正しく表示したい場合は、テレビの 2D 映像を 3D 映像へ変換する設定をオフにしてください。

□HDMI コントロール機能 (🔗53 ページ)

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作したりすることができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

□Content Type 機能

HDMI 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

□Deep Color 機能 (🔗93 ページ)

Deep Color 機能対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

□Auto Lip Sync 機能 (🔗69、94 ページ)

□“x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color および Adobe YCC601 color 機能 (🔗93、94 ページ)

□HD オーディオフォーマット

□ARC (Audio Return Channel) 機能 (🔗11 ページ)

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System) と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

□HDMI 設定 (🔗69 ページ)

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- オートリップシンク
- HDMI コントロール
- パワーオフコントロール
- HDMI 音声出力
- スタンバイ時の HDMI 入力

ご注意

HDMI 入力端子から入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビに出力するには、HDMI 音声の出力先を“TV”に設定してください。

アナログ入力端子またはデジタル入力端子から入力した音声信号を、HDMI 出力端 (MONITOR) から出力することはできません。

HDMI 接続に対応していない機器を接続する

高品位な映像再生と高音質なサラウンド再生のために、本機とテレビ、本機と映像機器の接続には HDMI ケーブルでの接続をおすすめします（[10 ページ](#)「HDMI 接続に対応している機器を接続する」）。

ここでは、お手持ちの機器が HDMI 接続に対応していない場合の接続について説明します。

各機器の接続のしかた

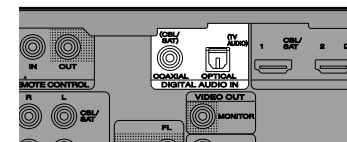
 TV	16 ページ	 CBL/SAT	17 ページ
 DVD	18 ページ	 Blu-ray	19 ページ
 CD	19 ページ	 TUNER	21 ページ
 M-XPoRT	22 ページ		

接続に使用するケーブル

映像ケーブル(別売り)	
ビデオケーブル	
音声ケーブル(別売り)	
同軸デジタルケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	

端子に割り当てる入力ソースの変更について

本機では、DIGITAL AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更することができます。



DVD プレーヤーの接続を例に説明します。本機のリアパネルの映像入力とデジタル音声入力の端子には DVD プレーヤー用の入力端子の表示(DVD)がありません。しかし、これらの端子に DVD プレーヤーを割り当てると、この端子を DVD プレーヤー用として使用することができます。本機の入力ソース切り替えのときに“DVD”を選ぶとこれらの端子に接続しているソースを再生できます。

□端子に割り当てる入力ソースの変更のしかた ([72 ページ](#))

テレビを接続する

- ここではお手持ちのテレビが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(P.10 ページ) またはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機と接続するテレビに ARC 機能対応の HDMI 端子がある場合は、テレビのデジタル音声信号を本機に伝送することができます (P.11 ページ「ARC (Audio Return Channel) 機能について」)。ARC 機能により、テレビの音声を本機で聴いたり、テレビに直接接続している HDMI 機器を視聴できたりします。その際、別途音声接続をする必要はありません。ARC 機能については、テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 本機で ARC 機能に対応していないテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルをお使いください。



映像機器を接続する際には、「映像信号とモニター出力の関係」(P.92 ページ) をご覧ください。

音声の接続

本機との接続には次の方法があります。いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 *

マルチチャンネル音声(デジタルビットストリーム音声)を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。

* この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
(P.72 入力端子の設定)。

映像の接続

本機との接続には次の方法があります。

1 VIDEO OUT(MONITOR) 端子 アナログ映像接続です。

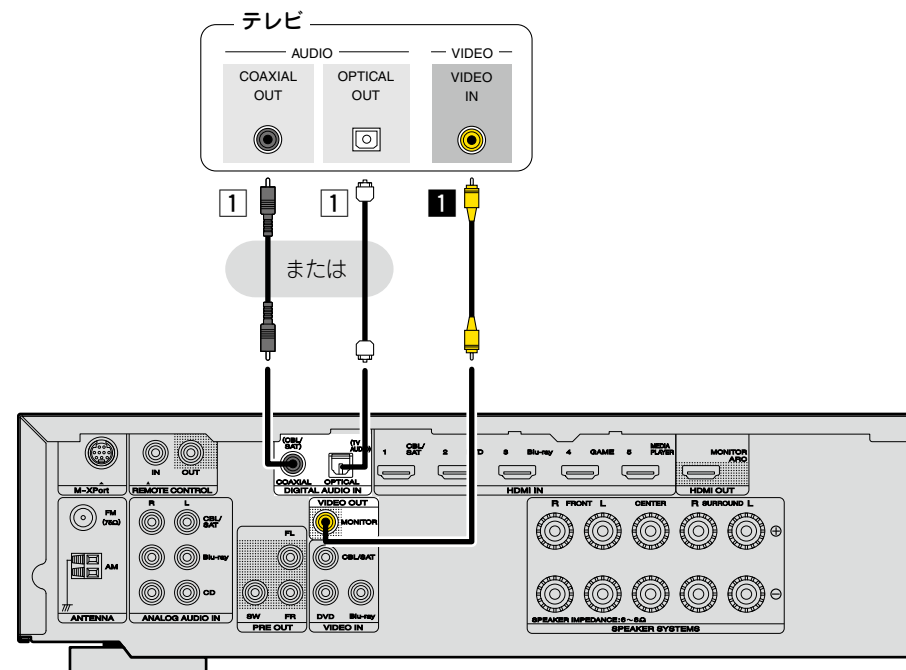
入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子

お買い上げ時の設定の“CBL/SAT”を“TV AUDIO”に変更する。

変更のしかたは、「デジタルオーディオ端子の割り当て」(P.72 ページ) をご覧ください。



ご注意

メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。

セットトップボックスを接続する (衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー)

ここではお手持ちの衛星チューナーやケーブルテレビチューナーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。

HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」([図 10 ページ](#))をご覧ください。

□音声の接続

本機との接続には次の方法があります。いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子 *

マルチチャンネル音声(デジタルビットストリーム音声)を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。

* この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります
([図 入力端子の設定](#))。

2 ANALOG AUDIO IN(CBL/SAT) 端子

アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

□映像の接続

本機との接続には次の方法があります。

1 VIDEO IN(CBL/SAT) 端子

アナログ映像接続です。

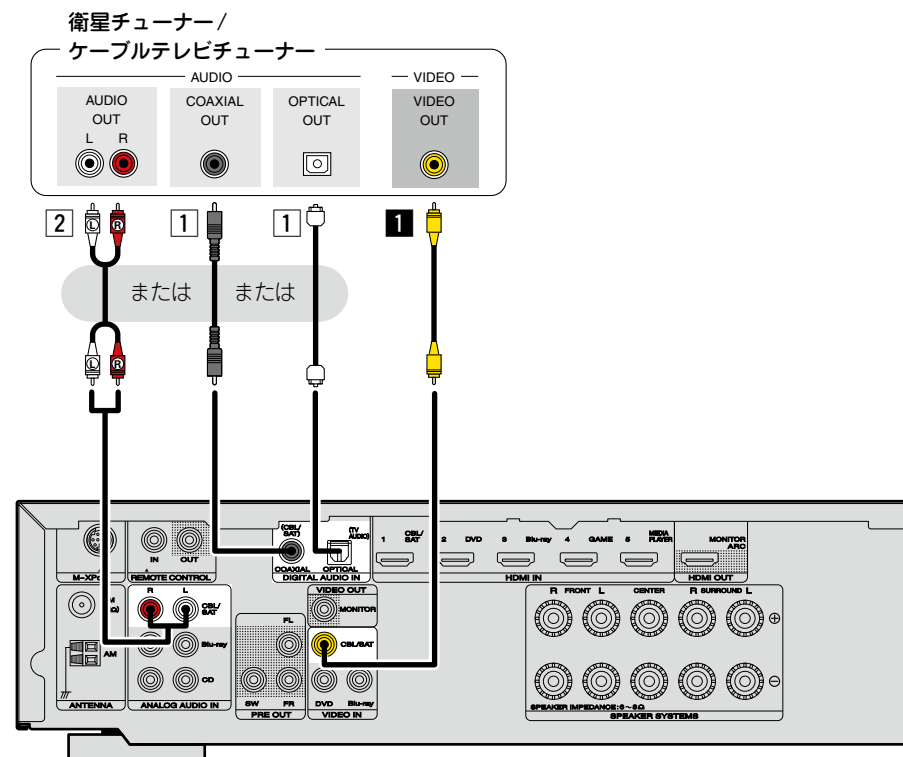
入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

1 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

お買い上げ時の設定の“TV AUDIO”を“CBL/SAT”に変更する。

変更のしかたは、「デジタルオーディオ端子の割り当て」([図 72 ページ](#))をご覧ください。



DVD プレーヤーを接続する

ここではお手持ちの DVD プレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。

HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」([10 ページ](#))をご覧ください。

音声の接続

本機との接続には次の方法があります。いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

マルチチャンネル音声(デジタルビットストリーム音声)を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。

この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります

([入力端子の設定](#))。

映像の接続

本機との接続には次の方法があります。

1 VIDEO IN(DVD) 端子

アナログ映像接続です。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

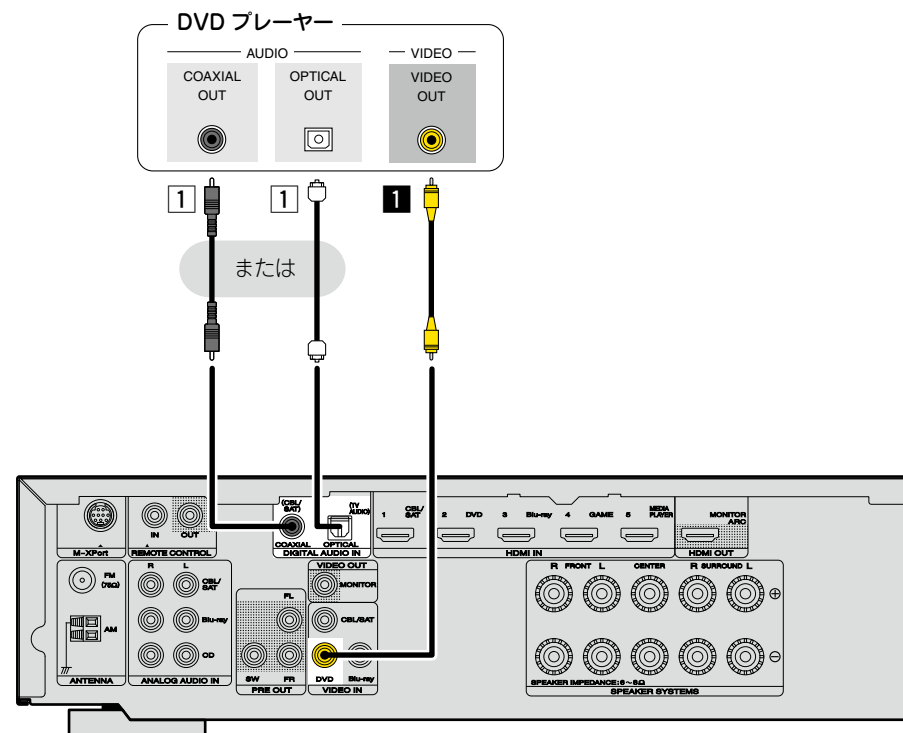
1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子

お買い上げ時の設定の“CBL/SAT”を“DVD”に変更する。

DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

お買い上げ時の設定の“TV AUDIO”を“DVD”に変更する。

変更のしかたは、「デジタルオーディオ端子の割り当て」([72 ページ](#))をご覧ください。



ブルーレイディスクプレーヤーを接続する

ここではお手持ちのブルーレイディスクプレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。

HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」([10 ページ](#))をご覧ください。

音声の接続

本機との接続には次の方法があります。いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

マルチチャンネル音声（デジタルビットストリーム音声）を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。ただし、ブルーレイディスクプレーヤーの HD 音声（Dolby Digital Plus や dts-HD など）のデジタルビットストリーム音声信号は伝送できません。この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります（[入力端子の設定](#)）。

2 ANALOG AUDIO IN(Blu-ray) 端子

アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

映像の接続

本機との接続には次の方法があります。

1 VIDEO IN(Blu-ray) 端子

アナログ映像接続です。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

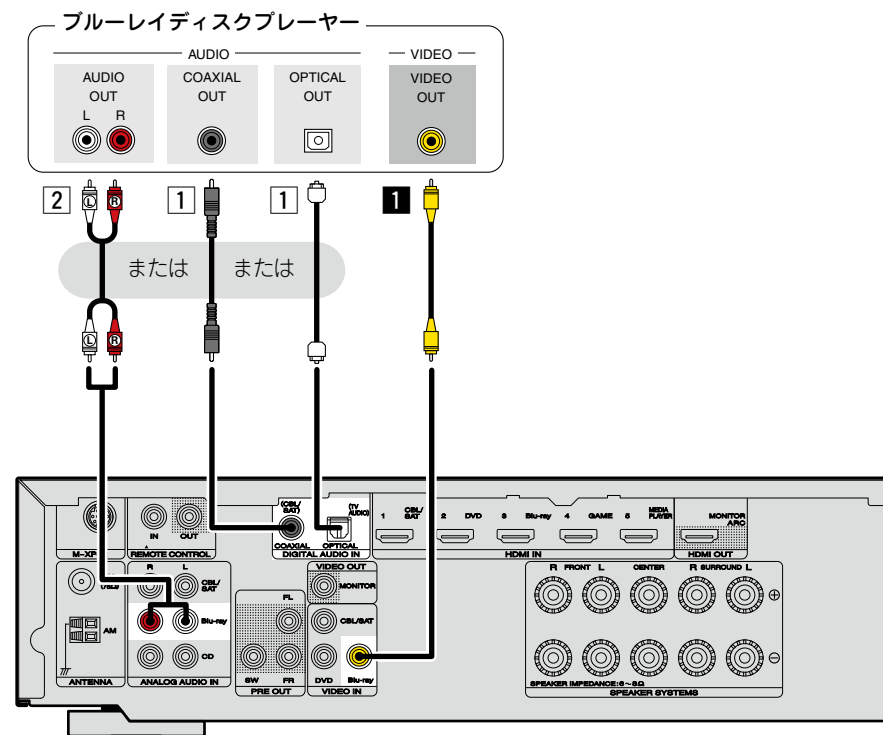
1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子

お買い上げ時の設定の“CBL/SAT”を“Blu-ray”に変更する。

DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

お買い上げ時の設定の“TV AUDIO”を“Blu-ray”に変更する。

変更のしかたは、「デジタルオーディオ端子の割り当て」([72 ページ](#))をご覧ください。



HD オーディオ (Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express) およびマルチチャンネル PCM 信号を再生する場合は、HDMI 接続をしてください（[10 ページ](#)「HDMI 接続に対応している機器を接続する」）。

CD を接続する

CD の再生ができます。

音声の接続

本機との接続には次の方法があります。いずれか 1 つの接続を選んでおこなってください。
それぞれの端子名の先頭番号は推奨順です。良質な再生品質が得られる順番です。

1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子 DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

マルチチャンネル音声（デジタルビットストリーム音声）を入力すると、本機でデコードし、サラウンド再生をします。

この接続をおこなう場合は、本機の設定を変更する必要があります

( **入力端子の設定**)。

2 ANALOG AUDIO IN(CD) 端子

アナログ音声接続です。この接続ではデジタル音声をアナログ音声に変換するため、1 の接続に比べ、出力される音声に劣化が生じる場合があります。

入力端子の設定

次の接続をするときは、入力端子の設定を変更する必要があります。

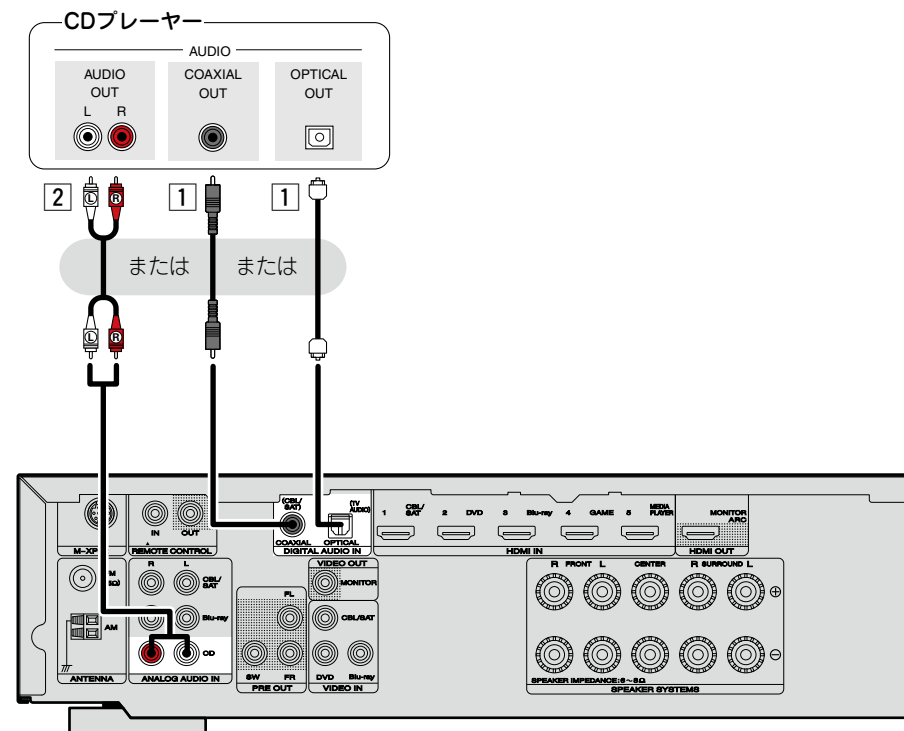
1 DIGITAL AUDIO COAXIAL 端子

お買い上げ時の設定の“CBL/SAT”を“CD”に変更する。

DIGITAL AUDIO OPTICAL 端子

お買い上げ時の設定の“TV AUDIO”を“CD”に変更する。

変更のしかたは、「デジタルオーディオ端子の割り当て」( [72 ページ](#)) をご覧ください。



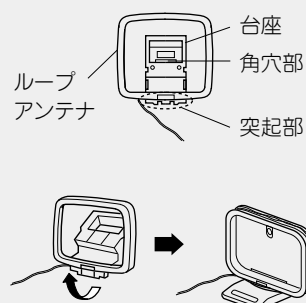
FM/AM アンテナを接続する

- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、FM 放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続したあとに放送を受信し（[33 ページ](#)「FM/AM 放送を聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

□AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

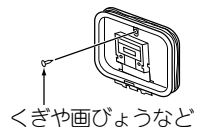
2 突起部を台座の角穴部に差し込む。



□AM ループアンテナの使いかた

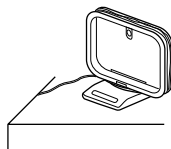
壁にかけて使う

組み立てずにそのままお使いください。



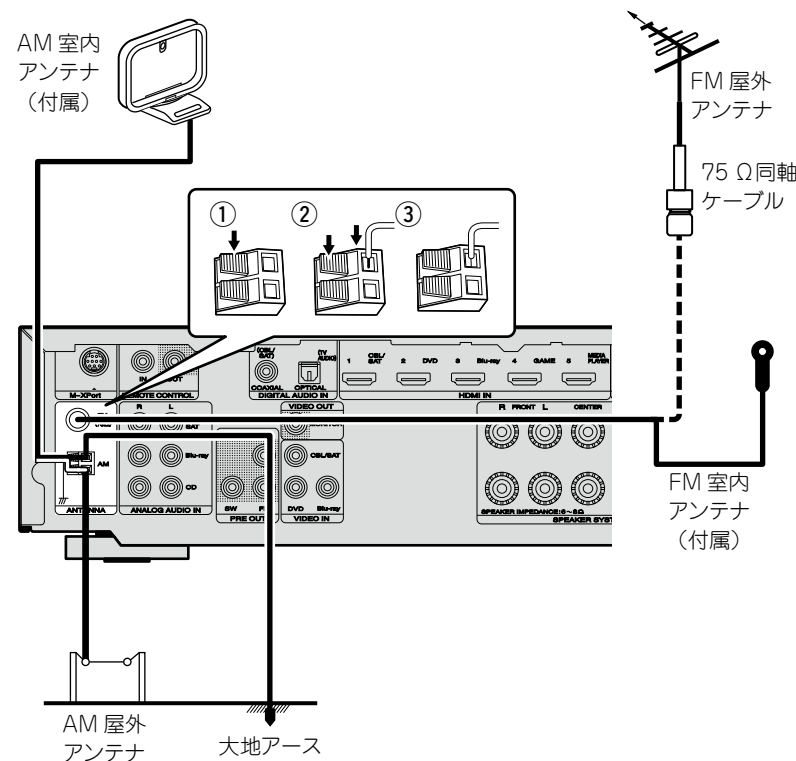
置いて使う

上図のように組み立ててお使いください。



ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- FM や AM の受信感度は、アンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないかご確認ください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- AM 屋外アンテナを接続時も AM ループアンテナを接続してください。
- ケーブルテレビにご加入の場合は、ケーブルテレビのアンテナで FM 放送を受信できる場合があります。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

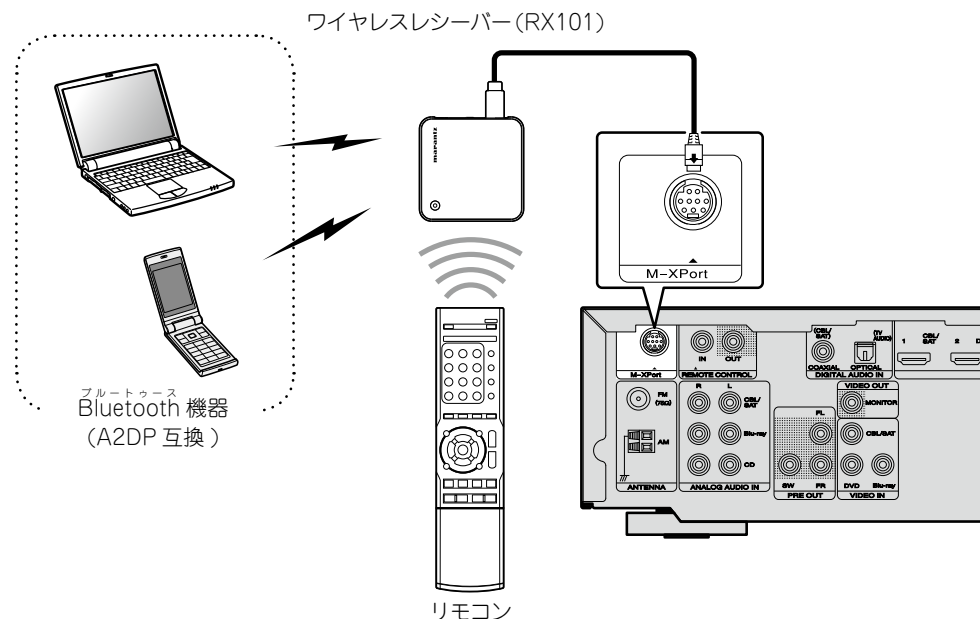


ワイヤレスレシーバー (RX101) を接続する

- 本機にワイヤレスレシーバー (RX101、別売り) を接続することにより、Bluetooth 機器の曲を本機で再生できます。
- この操作をおこなう場合は、入力ソースを“M-XPort”に切り替えてください ([31 ページ](#) 「入力ソースを選ぶ」)。
- 本機は Bluetooth プロファイルの A2DP 規格に対応しています。
- ワイヤレスレシーバーやお使いの Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

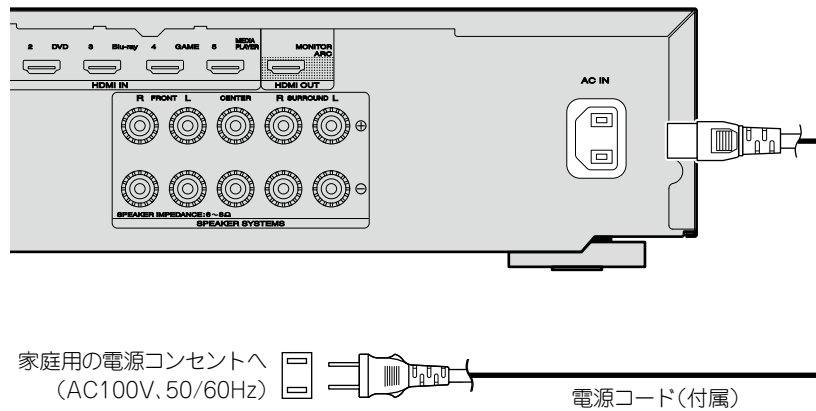


- お使いの Bluetooth 機器を初めてワイヤレスレシーバーに接続する場合は、ペアリングをおこなう必要があります。一度ペアリングが完了すると、接続操作をおこなうだけで Bluetooth 機器とワイヤレスレシーバー間の通信が確立されます。ペアリングは Bluetooth 機器ごとに必要です。
- ワイヤレスレシーバーを赤外線受信機として使用することもできます。この場合、「リモートロック機能」 ([56 ページ](#)) でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。



電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (8 ページ) メニューを操作中は、“セットアップアシスタント”メニューの指示に沿って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハム音や雑音の原因となることがあります。

設定のしかた

ここではお使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう“Audyssey® セットアップ”について説明します。

□ スピーカーを接続する (🔗 48 ページ)

□ スピーカーを設定する (Audyssey® セットアップ) (🔗 24 ページ)

再生のしかた (基本操作) (🔗 31 ページ)

リスニングモードを選ぶ (サウンドモード) (🔗 41 ページ)

再生のしかた (応用操作) (🔗 53 ページ)



スピーカーを設定する (Audyssey® セットアップ)



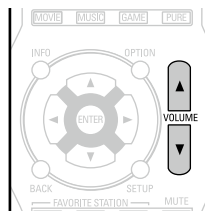
接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey® セットアップ”と呼びます。

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、6箇所(最大で6箇所)の測定をすることをおすすめします。

- Audyssey® セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ®, Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の機能 (🔗 66 ページ) が有効になります。
- 手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“スピーカー” (🔗 75 ページ) でおこなってください。

ご注意

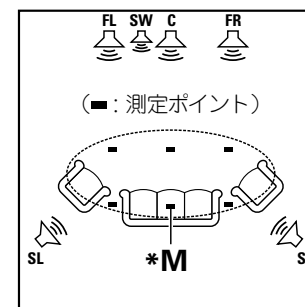
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey® セットアップが完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの **VOLUME ▲▼** または本機の **VOLUME** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey® セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。



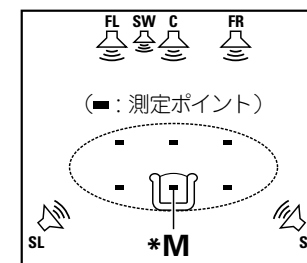
セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように6箇所(最大で6箇所)で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例①】



【例②】



FL フロントスピーカー(左) SW サブウーハー
FR フロントスピーカー(右) SL サラウンドスピーカー(左)
C センタースピーカー SR サラウンドスピーカー(右)

メインリスニングポイント(* M)について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときの座る位置です。Audyssey® セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。



三脚やスタンドがない場合は、背もたれのない椅子などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをお使いの場合のみ、この設定をおこなってください。

詳しくは、お使いのサブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

□ ダイレクトモード機能があるサブウーハーをお使いの場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

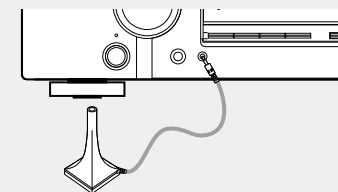
□ ダイレクトモード機能がないサブウーハーをお使いの場合

次のように設定してください。

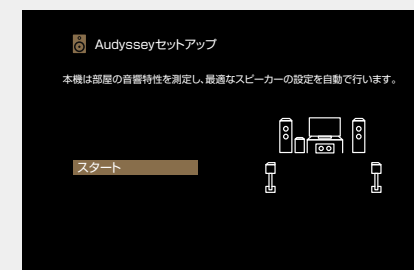
- 音量の設定：“12 時”の位置
- クロスオーバー周波数の設定：“最大 / 最高周波数”
- ローパスフィルターの設定：“オフ”
- スタンバイモードの設定：“オフ”

準備

3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



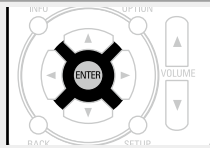
【本体のディスプレイ】

Start

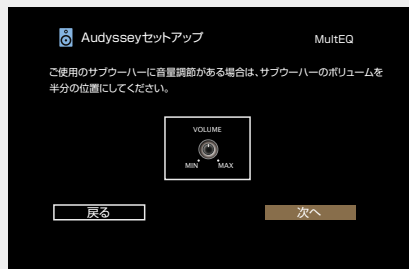
- スピーカーの設定や接続については、「スピーカーの設置や接続のしかた（応用）」（[47 ページ](#)）をご覧ください。
- テレビの接続については、「本機とテレビを HDMI 接続する」（[12 ページ](#)）をご覧ください。

準備 (つづき)

4 “スタート”を選び、ENTER を押す。



5 “次へ”を選び、ENTER を押す。
サブウーハーの音量設定画面を表示します。



スピーカー検出と測定 (メイン)

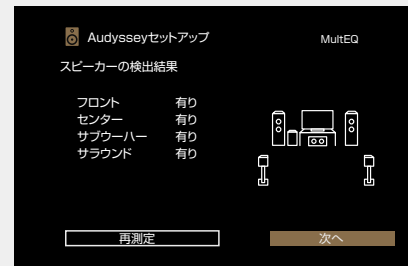
このステップでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

6 “テスト開始”を選び、ENTER を押す。
各スピーカーからテストトーンを出力し、測定を開始します。

- 測定には数分間かかります。

7 検出されたスピーカーを表示します。

- 次の図は、フロントスピーカー / センタースピーカー / サブウーハー / サラウンドスピーカーを検出したときの表示例です。



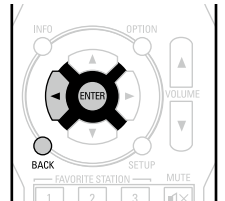
ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

8 “次へ”を選び、ENTER を押す。

ご注意

テレビ画面に“注意!”が表示された場合「エラーメッセージについて」([P.29](#) ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
エラーが解決したら、再び“Audyssey® セットアップ”をはじめからおこなってください。



1 つ前の画面に戻るとき

“戻る”を選び、ENTER を押す。

測定を中止するとき

- ① BACKを押して、ポップアップ画面を表示させる。
- ② <を押して“はい”を選び、ENTERを押す。

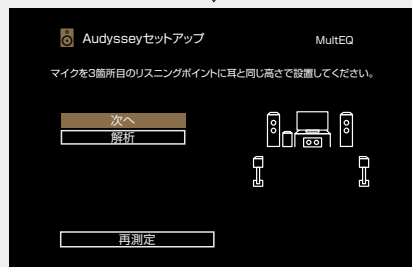
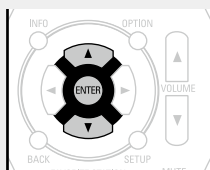
再度スピーカーを設定するとき

手順 3 以降の操作をおこなってください。

測定 (2～6 箇所目)

- このステップでは、メインリスニングポイント以外の複数の箇所 (2～6 箇所) を測定します。
- メインリスニングポイントの 1 箇所のみでも測定可能ですが、複数の箇所を測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

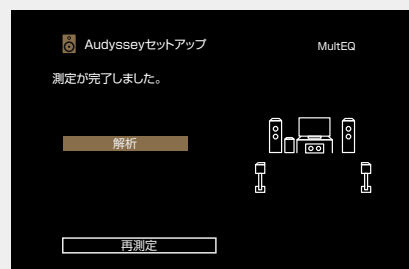
9 2 箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、**ENTER** を押す。
2 箇所目の測定をはじめます。
最大 6 箇所まで測定できます。



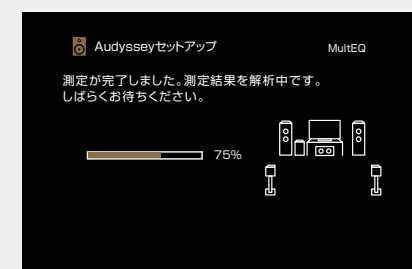
- 3 箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、△▽で“解析”を選んで **ENTER** を押し、手順 12 へ進んでください。
- 2 箇所目を再測定したい場合は、△▽で“再測定”を選び、**ENTER** を押してください。

解析

10 手順 9 をくり返して 3～6 箇所を測定する。
6 箇所目の測定が完了すると、“測定が完了しました。”を表示します。



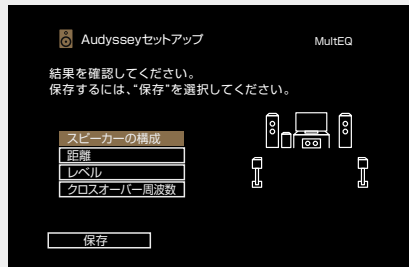
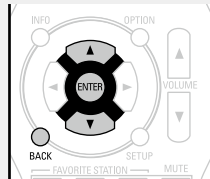
11 “解析”を選び、**ENTER** を押す。
測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。



- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

解析結果の確認

12 △▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。



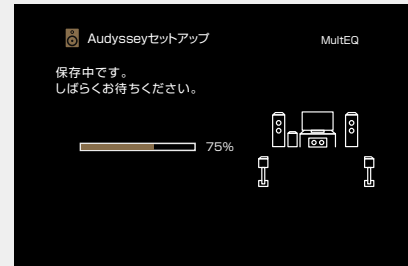
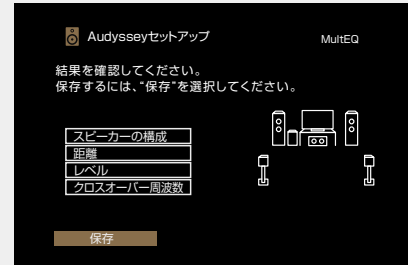
- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、**BACK** を押してください。

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や“注意!”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」(P.29 ページ)をご覧ください。エラーが解決したら、再度 Audyssey® セットアップをはじめからおこなってください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey® セットアップをおこなってください。

保存

13 “保存”を選び、ENTER を押す。 測定結果を保存します。



- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果の保存中は“保存中です。しばらくお待ちください。”を表示します。保存が終了すると、“保存しました。これで、Audyssey セットアップは完了です。”を表示します。

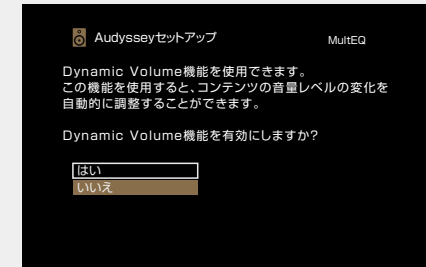
ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

終了

14 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

15 Audyssey Dynamic Volume® の設定をする。



- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

□ Dynamic Volume の設定をするとき

- △ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。
自動的に“Medium”モードになります (P.67 ページ)。

□ Dynamic Volume の設定をしないとき

- ▽ を押して“いいえ”を選び、ENTER を押す。

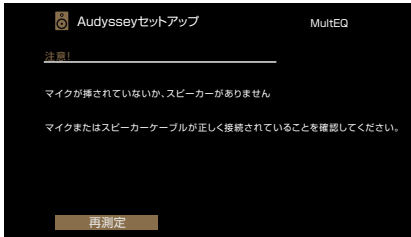
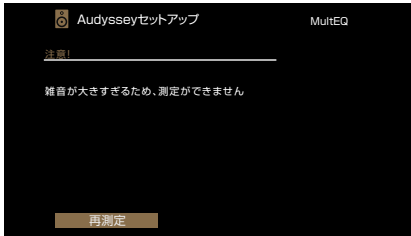
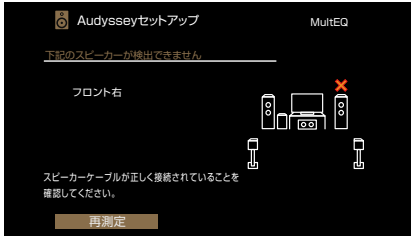
ご注意

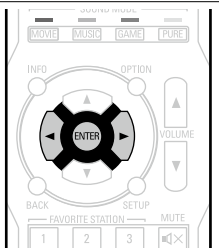
Audyssey® セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、再び Audyssey® セットアップをおこなってください。

エラーメッセージについて

ご注意

- スピーカーの設置や測定環境などにより Audyssey® セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したら、再び Audyssey® セットアップをはじめからおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ (例)	エラーの内容	エラーの処理方法
	• 接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
	• 部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
	• 表示されたスピーカーが検出されない。 (左の画面は、フロント右スピーカーが検出できないことをあらわします。)	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
	• 表示されたスピーカーの位相が逆である。 (左の画面は、フロント右スピーカーの位相が逆になっていることをあらわします。)	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、◀▶を押して“スキップ”を選び、ENTERを押してください。



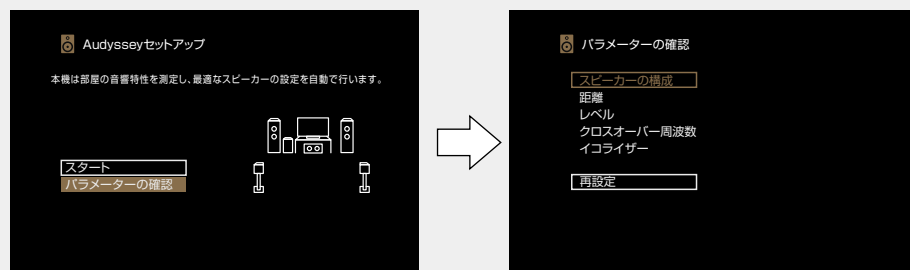
パラメーターを確認する

Audyssey[®] セットアップをおこなったあとに、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

1 **SETUP** を押して、テレビ画面にメニューを表示させる。

2 Δ / ∇ を押して“スピーカー”⇒“Audyssey[®] セットアップ”を選び、**ENTER** または $\triangleright$ を押す。

3 Δ / ∇ を押して“パラメーターの確認”を選び、**ENTER** を押す。



4 Δ / ∇ を押して確認したい項目を選び、**ENTER** を押す。
スピーカーごとに測定結果を表示します。

スピーカーの構成 スピーカーの構成を確認します。

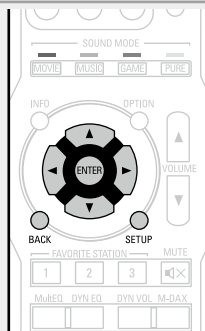
距離 スピーカーの距離を確認します。

レベル スピーカーのチャンネルレベルを確認します。

クロスオーバー周波数 スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。

イコライザー イコライザーの補正カーブを確認します。

- “イコライザー”を選んだ場合は、 Δ / ∇ を押して確認したい補正カーブ(“Audyssey”または“Audyssey Flat”)を選んでください。
 $\triangleleft$ / $\triangleright$ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。



5 $\triangleleft$ または **BACK** を押す。
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey[®] セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選ぶと、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey[®] セットアップの測定結果(MultEQ[®] が当初計算した値)に戻すことができます。

再生のしかた（基本操作）

設定のしかた（[24 ページ](#)）

- ❑ 本機の電源を入れる（[31 ページ](#)）
- ❑ 入力ソースを選ぶ（[31 ページ](#)）
- ❑ 主音量を調節する（[32 ページ](#)）
- ❑ 一時的に音を消す（ミュート）（[32 ページ](#)）

- ❑ ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する（[32 ページ](#)）
- ❑ CD プレーヤーを再生する（[32 ページ](#)）
- ❑ FM/AM 放送を聴く（[33 ページ](#)）

リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）（[41 ページ](#)）

接続のしかた（応用接続）（[52 ページ](#)）

再生のしかた（応用操作）（[53 ページ](#)）

知っておいてほしいこと

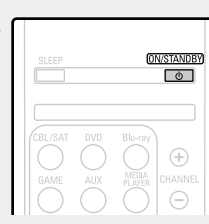
再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。



再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

本機の電源を入れる

ON/STANDBY を押して、本機の電源を入れる。



本体の **ON/STANDBY** を押しても電源を入れることができます。

❑ 本機の電源をスタンバイにする

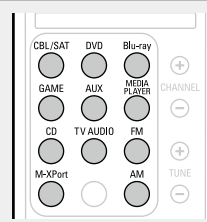
ON/STANDBY を押す。

【スタンバイ時の本体の STANDBY 表示】

- 通常のスタンバイ時：赤色
- メニューの“HDMI コントロール”（[69 ページ](#)）の設定が“オン”のとき：オレンジ色

入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン（CBL/SAT、DVD、Blu-ray、GAME、AUX、MEDIA PLAYER、CD、TV AUDIO、FM、M-XPOR または AM）を押す。
入力ソースをダイレクトに選べます。

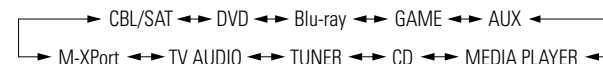


次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

❑ 本体のボタンで入力ソースを選ぶ

INPUT SELECTOR を回す。

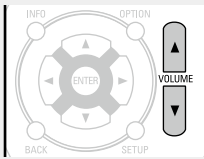
- **INPUT SELECTOR** を回すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。



主音量を調節する

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- メニューの“表示方法”([65 ページ](#)) の設定により、音量の表示方式が異なります。



- “表示方法”の設定 ([65 ページ](#)) が“0～98”のとき

【調節できる範囲】 0.0 0.5～98.0

- “表示方法”の設定 ([65 ページ](#)) が“-79.5dB～18.0dB”のとき

【調節できる範囲】 --- -79.5dB～18.0dB

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

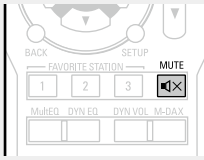


本体の **VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミュートイング）

MUTE を押す。

- ディスプレイの“MUTE”表示が点滅します。
- テレビ画面に を表示します。



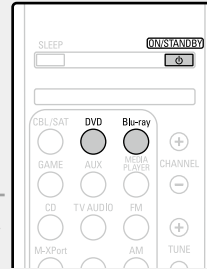
- メニューの“ミュートレベル”([65 ページ](#)) で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミュートイングを解除するときは、再度 **MUTE** を押してください。ミュートイング中に主音量を調節しても解除しません。

ブルーレイディスクプレーヤーやDVD プレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

- ① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
- ② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
- ③ プレーヤーにディスクを入れる。



2 ON/STANDBY を押して、本機の電源を入れる。

3 Blu-ray または DVD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。

- あらかじめプレーヤーの設定(言語設定や字幕設定など)をおこなってください。

CD プレーヤーを再生する

CD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

- ① サブウーハーやプレーヤーの電源を入れる。
- ② プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON/STANDBY を押して、本機の電源を入れる。

3 CD を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。

4 CD プレーヤーを再生する。



FM/AM 放送を聴く

アンテナの接続については、「FM/AM アンテナを接続する」
([P.21 ページ](#)) をご覧ください。

受信のしかた

FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”モードです。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”があります。

“オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”で受信してください。

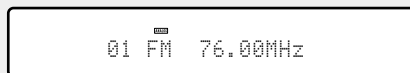
FM/AM 放送を聴く

1 FM または AM を押して、入力ソースを切り替える。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



2 TUNE + または TUNE - を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかったと自動的にスキャンを停止して受信します。

FAVORITE STATION ボタンに登録する

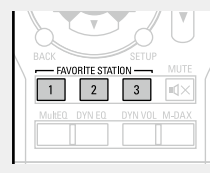
最大 3 種類のコンテンツに登録できます。

ご注意

すでに登録済みの番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されますのでご注意ください。

コンテンツの再生中に、FAVORITE STATION 1～3 のいずれかのボタンを 3 秒以上押す。

押されたボタンにコンテンツを登録します。



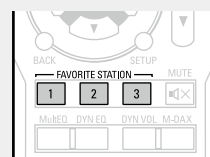
FAVORITE STATION 1～3 には、入力ソースおよびラジオ局を登録します。

FAVORITE STATION ボタンに登録したコンテンツを再生する

FAVORITE STATION を押すだけでコンテンツを簡単に呼び出せます。

コンテンツに登録した FAVORITE STATION 1～3 のいずれかのボタンを押す。

再生をはじめます。



オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

□ 受信周波数を入力して受信する
(ダイレクトチューニング) (P.35 ページ)

□ 聴いている放送局をプリセットする
(プリセットに登録) (P.37 ページ)

□ 受信モードを変更する
(チューニングモード) (P.34 ページ)

□ 自動でラジオ放送を選局し自動でプリセットする
(オートプリセット) (P.36 ページ)

□ プリセットした放送局に名前をつける
(プリセット名前) (P.38 ページ)

□ プリセットした放送局をスキップする
(プリセットスキップ) (P.39 ページ)

□ 受信モードを変更する (チューニングモード)

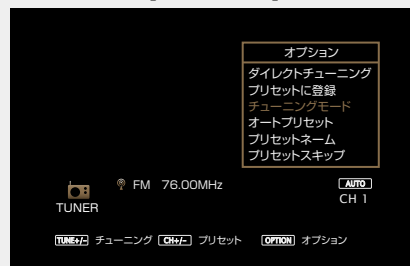
FM または AM 放送局の受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

1 FM または AM を押して、入力ソースを切り替える。

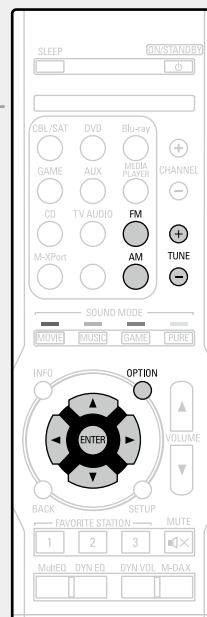
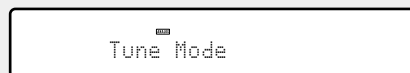
2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 Δ ∇ を押して“チューニングモード”を選び、**ENTER** を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



4 $\triangleleft$ $\triangleright$ を押してチューニングモードを選び、**ENTER** を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



オート 自動で放送局を受信します。

マニュアル 手動で放送局を受信します。

5 **TUNE +** または **TUNE -** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。
ボタンを押すたびに、周波数が段階的に切り替わります。



マニュアルチューニング中に **TUNE +** または **TUNE -** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。

□ 画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面の表示” (P.70 ページ) で設定してください。お買い上げ時の設定は、“30s”です。
画面表示が消えているときに Δ ∇ $\triangleleft$ $\triangleright$ を押すと、元の画面に戻ります。

□受信周波数を入力して受信する (ダイレクトチューニング)

ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 FM または AM を押して、入力ソースを切り替える。

2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

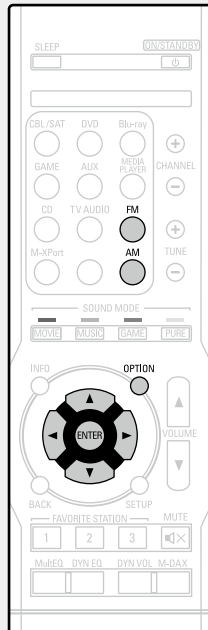
3 Δ ∇ を押して“ダイレクト
チューニング”を選び、**ENTER**
を押す。
ダイレクトチューニング画面を表示
し、ディスプレイの“-”が点滅しま
す。

【テレビ画面】



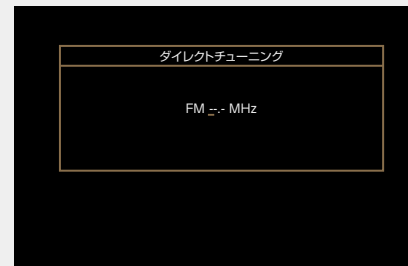
【本体のディスプレイ】

Direct Tune



4 Δ ∇ を押して数字を選び、 $\triangleright$ を押す。
周波数入力画面を表示します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

Direct Tune



FM 76.00 MHz

• $\triangleleft$ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができ
ます。

5 手順 4 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入
力する。

6 入力が完了したら、**ENTER** を押す。
放送局を受信します。

放送局をプリセットする

□ 自動でラジオ放送を選局し自動でプリセットする（オートプリセット）

最大 56 局までプリセットできます。

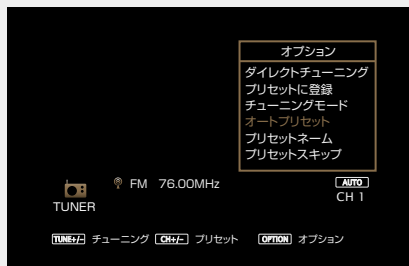
ただし、“プリセットに登録”後に“オートプリセット”をおこなった場合、“プリセットに登録”で設定していた放送局に上書きします。

1 FM を押して、入力ソースを切り替える。

2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

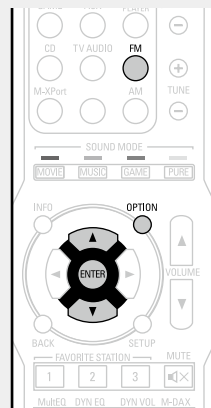
3 △▽ を押して“オートプリセット”を選び、ENTER を押す。

【テレビ画面】



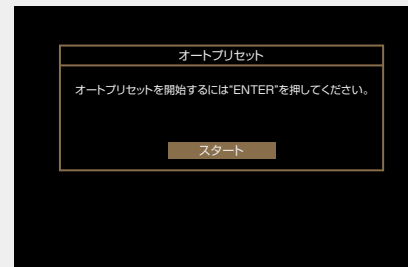
【本体のディスプレイ】

Auto Preset



4 ENTER を押す。
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

AutoPreset:Start

- プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。

□聴いている放送局をプリセットする (プリセットに登録)

手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

1 プリセットしたい放送局を受信する。

2 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

3 △▽ を押して“プリセットに登録”を選び、ENTER を押す。

すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。

【テレビ画面】

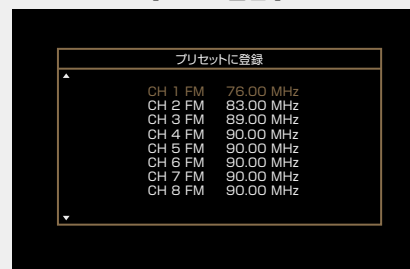


4 △▽ を押してプリセットしたいチャンネルを選び、ENTER を押す。

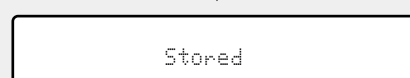
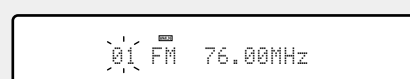
現在受信している放送局をプリセットします。

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



“プリセットスキップ” ([39 ページ](#)) に設定した放送局はチャンネル番号がグレー表示になっていますが、放送局はプリセットできます。

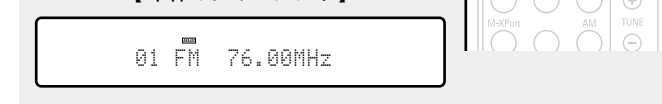
グレー表示のチャンネル番号にプリセットをすると、ハイライト表示に変わり、“プリセットスキップ”が“オン”になります。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1～8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9～16	522 / 603 / 999 / 1404 / 1629kHz 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17～24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25～32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33～40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41～48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49～56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

CHANNEL + または **CHANNEL -** を押して、プリセットしたチャンネルを選ぶ。

【本体のディスプレイ】



本体の **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押しても、プリセットした放送局を選べます。

□プリセットした放送局に名前をつける (プリセットネーム)

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりできます。

8 文字まで入力できます。

1 FM または AM を押して、入力ソースを切り替える。

2 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

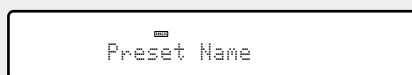
3 △▽ を押して“プリセットネーム”を選び、ENTER を押す。

プリセットネーム画面を表示します。

【テレビ画面】



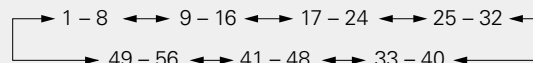
【本体のディスプレイ】



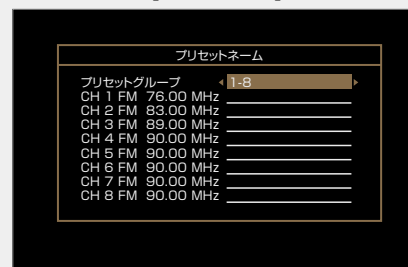
4 ◀ ▶ を押して名前をつけたい放送局のグループを選び、ENTER を押す。

プリセットネームの編集画面を表示します。

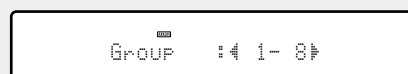
•◀ ▶ を押すたびに、グループが次の順序で切り替わります。



【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

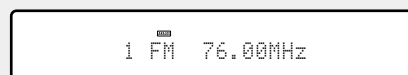


5 △▽ を押して名前をつけたい放送局を選び、ENTER を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



6 △▽ を押してネームラベルを選び、ENTER を押す。

プリセットネームの編集画面を表示します。

•“初期化”を選ぶと、周波数表示に戻ります。

7 文字を入力して、OK を押す。

•文字の入力方法については、[61 ページ](#)をご覧ください。

8 BACK を 2 回押す。

再生画面に戻ります。

□プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ)

選局するとき、表示させない放送局をグループごとまたは放送局ごとにあらかじめ設定できます。

プリセットスキップを設定すると、お好みの放送局だけの表示になりますので選局するときに便利です。

1 FM または AM を押して、入力ソースを切り替える。

2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽** を押して“プリセットスキップ”を選び、**ENTER** を押す。
プリセットスキップ画面を表示します。

【テレビ画面】



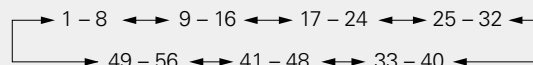
【本体のディスプレイ】

Preset Skip

4-1 【スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき】

① **◀▶** を押してスキップしたい放送局のグループを選ぶ。

- **◀▶** を押すたびに、グループが次の順序で切り替わります。



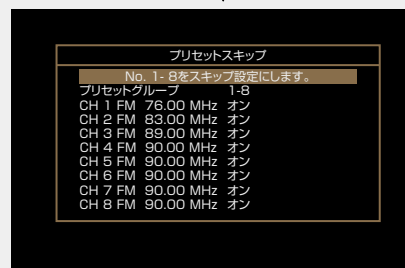
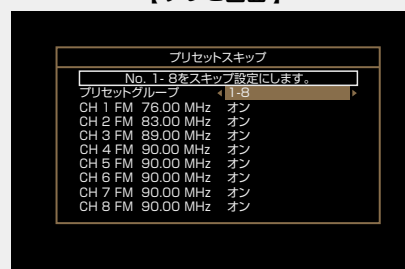
② **△** を押して“**No. *-*** をスキップ設定にします。”を選び、**ENTER** を押す。

選択したグループ“*-*”に含まれるすべての放送局を表示しません。

(* は選択しているグループ番号です。)

③ **BACK** を押す。

【テレビ画面】



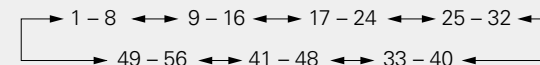
【本体のディスプレイ】

Set 1-8 to Skip

4-2 【スキップしたい放送局を放送局ごとに設定するとき】

① **◀▶** を押してスキップしたい放送局のグループを選ぶ。

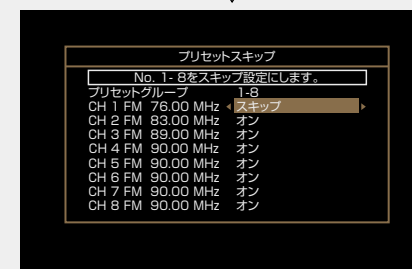
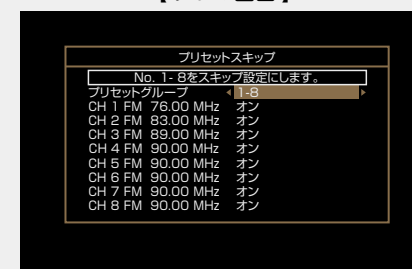
- **◀▶** を押すたびに、グループが次の順序で切り替わります。



② **△▽** を押してスキップしたい放送局を選ぶ。

③ **◀▶** を押して“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局を表示しません。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

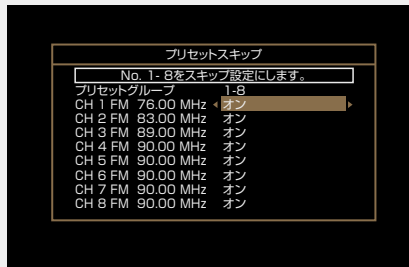
1 76.00MHz 45kHz

プリセットスキップを解除する

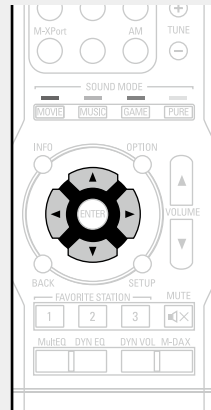
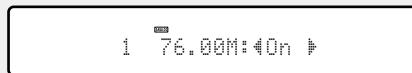
1 プリセットスキップ画面を表示中に◀▶を押して、スキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。

2 △▽を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

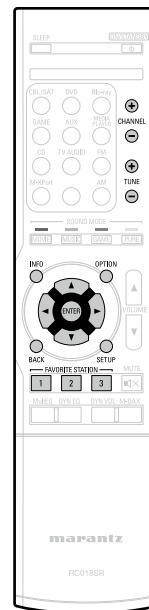


3 ◀▶を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

グループごとのスキップ解除はできません。

FM/AM 放送を受信時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
CHANNEL +, -	プリセットチャンネルの選択
TUNE +, -	選局(アップ / ダウン)
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	チューニングモードの切り替え / 受信周波数の入力 / プリセット登録 / オートプリセット / プリセットネーム / プリセットスキップ
△▽◀▶	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
FAVORITE STATION 1 ~ 3	お気に入りコンテンツの登録 / 呼び出し(33 ページ)

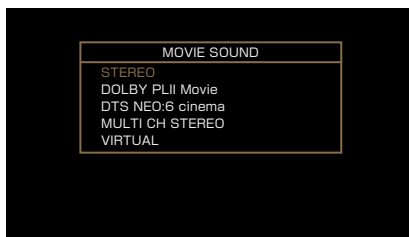
本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクやDVD はもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。

本機では、それらのほとんどがマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2 チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生がおこなえます。

本機では入力された音声フォーマットと現在のスピーカーの設置環境から、再生できるすべてのサウンドモードを自動的にリストアップして画面に表示します。そのため、サウンドモードを選ぶための専門的な知識がなくても正しいサラウンドモードを選ぶことができます。さまざまなサラウンド再生をお試しいただいた中から、最もお好みのサラウンド再生をお楽しみください。

【例】MOVIE を長押ししたとき



表示するサウンドモードには、2 チャンネル再生のステレオモードも含まれています。



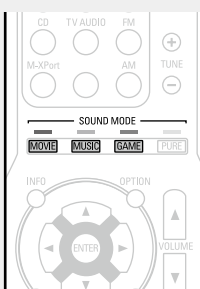
ディスクに収録されている音声フォーマットはディスクのジャケットをご覧ください。

リスニングモードを選ぶ

1 機器やコンテンツを再生する (32 ~ 40 ページ)。

2 MOVIE、MUSIC または GAME を長押しして、リスニングモードを選ぶ。

それぞれのモードに合わせて選択できるサウンドモードを自動的にリストアップして表示します。



• **MOVIE、MUSIC** または **GAME** を長押しするたびに、リスニングモードが切り替わります。

MOVIE リスニングモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

MUSIC リスニングモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME リスニングモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

• **MOVIE、MUSIC** または **GAME** を押すと、それぞれのモードの選択できるリスニングモードを表示します。**MOVIE、MUSIC** または **GAME** を押すたびに、リスニングモードが切り替わります。

• この一覧を表示中に Δ / ∇ を押して、リスニングモードを選択することもできます。



• **MOVIE、MUSIC** または **GAME** のボタンは、それぞれのボタンで最後に選んだサウンドモードを記憶します。**MOVIE、MUSIC** または **GAME** を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。

• 前回選んだサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選びます。

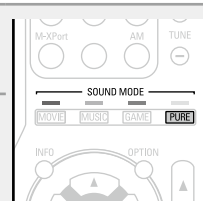
• 本体の **SOUND MODE** を押しても、サウンドモードを選べます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

1 機器やコンテンツを再生する (32 ~ 40 ページ)。

2 **PURE** を押して、“DIRECT”を選ぶ。
ダイレクト再生をはじめます。

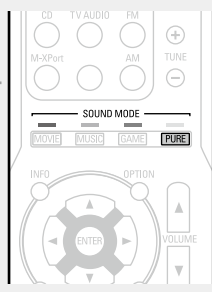


ピュアダイレクト再生

ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

1 機器やコンテンツを再生する
([32](#)～[40](#) ページ)。

2 **PURE** を押して、“**PURE DIRECT On**”を選ぶ。
ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をします。
このとき、本体の **PURE DIRECT** 表示が点灯します。



- ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。
 - トーンコントロール([64](#) ページ)
 - M-DAX([65](#) ページ)
 - MultEQ®([66](#) ページ)
 - Dynamic EQ([66](#) ページ)
 - Dynamic Volume([67](#) ページ)
- 本体の **PURE DIRECT** を押しても、ピュアダイレクト再生モードを選べます。

ご注意

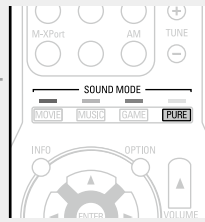
- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。
- ピュアダイレクト再生モード中は、ディスプレイが消灯し、通電されていない状態と同様になります。

オートサラウンド再生

このモードでは、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル) の場合は、ステレオ再生をおこないます。

1 機器やコンテンツを再生する
([32](#)～[40](#) ページ)。

2 **PURE** を押して、“**AUTO**”を選ぶ。
オートサラウンド再生をします。



□リスニングモード

- **MOVIE**、**MUSIC**、**GAME** または **PURE** ボタンで、下記のリスニングモードが選べます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”(P.63 ページ) で音場効果を調節すると、より好みのサウンドでお楽しみいただけます。

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
MOVIE	2 チャンネル *1	STEREO
		AUTO*2
		DOLBY PLII Movie*3
		DOLBY Pro Logic*3
		DTS NEO:6 Cinema*3
		MULTI CH STEREO
		VIRTUAL
	マルチチャンネル *4	STEREO
		AUTO*2
		Dolby Digital
		Dolby TrueHD
		Dolby Digital Plus
		DTS
		DTS SURROUND
		DTS 96/24
		DTS-HD / DTS Express
		DTS-HD HI RES
		DTS-HD MSTR
		DTS Express
		PCM マルチチャンネル
		MULTI CH IN
		MPEG-2 AAC
		MPEG2 AAC
		MULTI CH STEREO
		VIRTUAL

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
MUSIC	2 チャンネル *1	STEREO
		AUTO*2
		DOLBY PLII Music*3
		DTS NEO:6 Music*3
		MULTI CH STEREO
		VIRTUAL
	マルチチャンネル *4	STEREO
		AUTO*2
		Dolby Digital
		DOLBY DIGITAL
		Dolby TrueHD
		DOLBY TrueHD
		Dolby Digital Plus
		DOLBY DIGITAL Plus
		DTS
		DTS SURROUND
		DTS 96/24
		DTS-HD / DTS Express
		DTS-HD HI RES
		DTS-HD MSTR
		DTS Express
		PCM マルチチャンネル
		MULTI CH IN
		MPEG-2 AAC
		MPEG2 AAC
		MULTI CH STEREO
		VIRTUAL

- *1 2 チャンネルには、アナログ入力も含まれます。
- *2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
- *3 2 チャンネルソースを 5.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
- *4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.91 ページ) をご覧ください。

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
GAME	2 チャンネル *1	STEREO
		AUTO*2
		DOLBY PLII Game*3
		MULTI CH STEREO
		VIRTUAL
	マルチチャンネル *4	STEREO
		AUTO*2
		Dolby Digital
		DOLBY DIGITAL
		Dolby TrueHD
		DOLBY TrueHD
		Dolby Digital Plus
		DOLBY DIGITAL Plus
PURE	All	DTS
		DTS SURROUND
		DTS 96/24
		DTS-HD / DTS Express
		DTS-HD HI RES
		DTS-HD MSTR
		DTS Express
		PCM マルチチャンネル
		MULTI CH IN
		MPEG-2 AAC
		MPEG2 AAC
		MULTI CH STEREO
		DIRECT
		PURE DIRECT
		AUTO*2

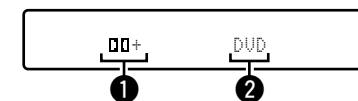
*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含まれます。

*2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。

*3 2 チャンネルソースを 5.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。

*4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.91 ページ)をご覧ください。

テレビ画面およびディスプレイの表示について



① 使用するデコーダーをあらわします。

• DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、“Dolby+”と表示します。

② 再生中の入力ソース名を表示します。

AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードの種類について

ドルビーリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DOLBY PLII	Dolby PLII デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 4.1 チャンネル(フロント左 / センター / フロント右 / サラウンドモノ)のサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY DIGITAL	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

DTS リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DTS NEO:6	DTS NEO:6 デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 映画再生に適した“Cinema”モードと、音楽再生に適した“Music”モードがあります。
DTS SURROUND	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

PCM マルチチャンネルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH IN	このモードは、マルチチャンネルの PCM ソースを入力しているときに選ばれます。

AAC リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MPEG2 AAC	このモードは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選ばれます。 MPEG-2 AAC により高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

オリジナルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH STEREO	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。 フロントスピーカー(左 / 右)と同じ音声を、サラウンドスピーカー(左 / 右)から同じレベルでそれぞれ再生します。
VIRTUAL	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。
AUTO	このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、DTS、DTS-HD、DTS-ES、PCM(マルチチャンネル)など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル)の場合は、ステレオ再生をおこないます。

ステレオリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
STEREO	音質調節ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。 • フロントスピーカー(左 / 右)とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DIRECT	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
PURE DIRECT	“DIRECT”モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

応用編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

- スピーカーの設置や接続のしかた（応用）  [47 ページ](#)
- 接続のしかた（応用接続）  [47 ページ](#)
- 再生のしかた（応用操作）  [53 ページ](#)
- 詳細設定のしかた  [58 ページ](#)

スピーカーの設置や接続のしかた（応用）

スピーカー設定の流れ

スピーカーを設置する



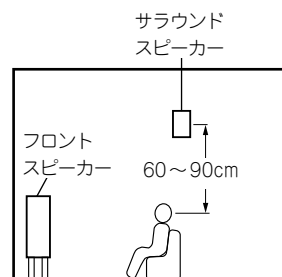
スピーカーを接続する ([48 ページ](#))

スピーカーを設置する

- お使いになるスピーカーの本数に応じて、スピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。本書では例として、代表的な設置方法を説明します。
- スピーカーはインピーダンスが6～8Ωのものを使用してください。

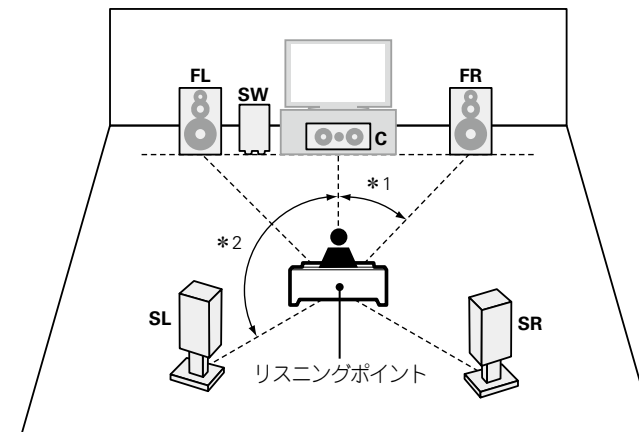


各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。



【側面から見た図】

5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1 22°~30° *2 120°

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー(左)	SW	サブウーハー
FR	フロントスピーカー(右)	SL	サラウンドスピーカー(左)
C	センタースピーカー	SR	サラウンドスピーカー(右)

スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、代表的な接続方法を説明しています。

- ❑ 5.1 チャンネルのスピーカーを接続する (🔗 49 ページ)
- ❑ 2.1 チャンネルのスピーカーを接続する (🔗 50 ページ)
- ❑ パワーアンプを使用してフロントスピーカーを接続する (🔗 51 ページ)

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します (🔗 94 ページ「保護回路」)。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント” (📖 8 ページ) メニューを操作中は、“セットアップアシスタント”メニューの指示に沿って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。)
- スピーカーは次のインピーダンスのものをお使いください。

ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT	6～8 Ω
CENTER	
SURROUND	

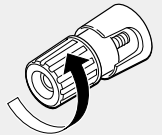
スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

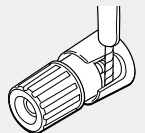
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



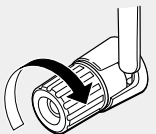
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

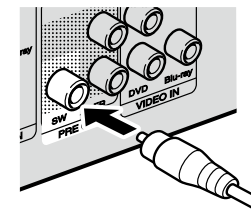


- 4 スピーカー端子を右に回して締める。



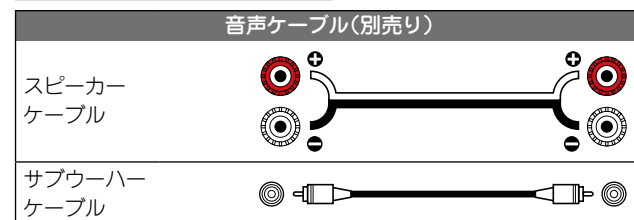
サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用してサブウーハーと接続します。



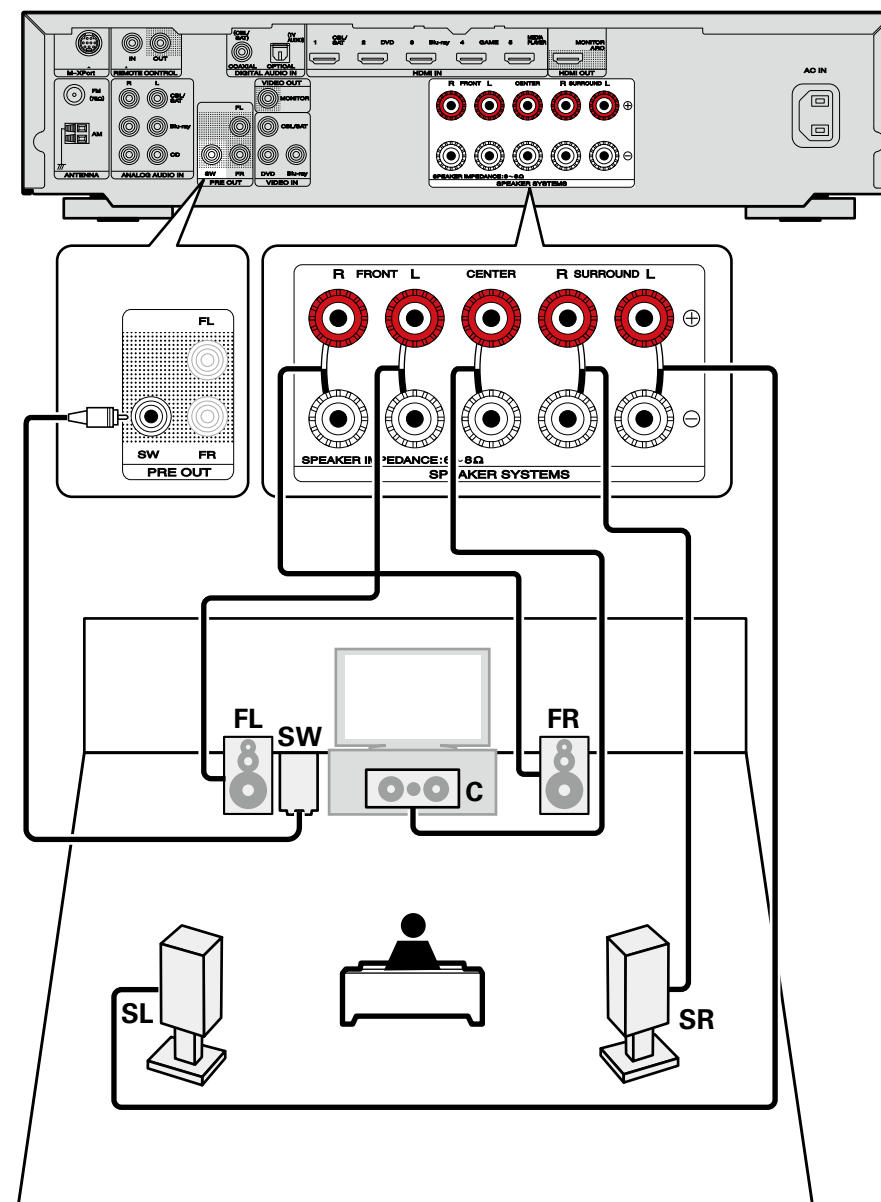
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

接続に使用するケーブル



ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、[48 ページ](#)をご覧ください。



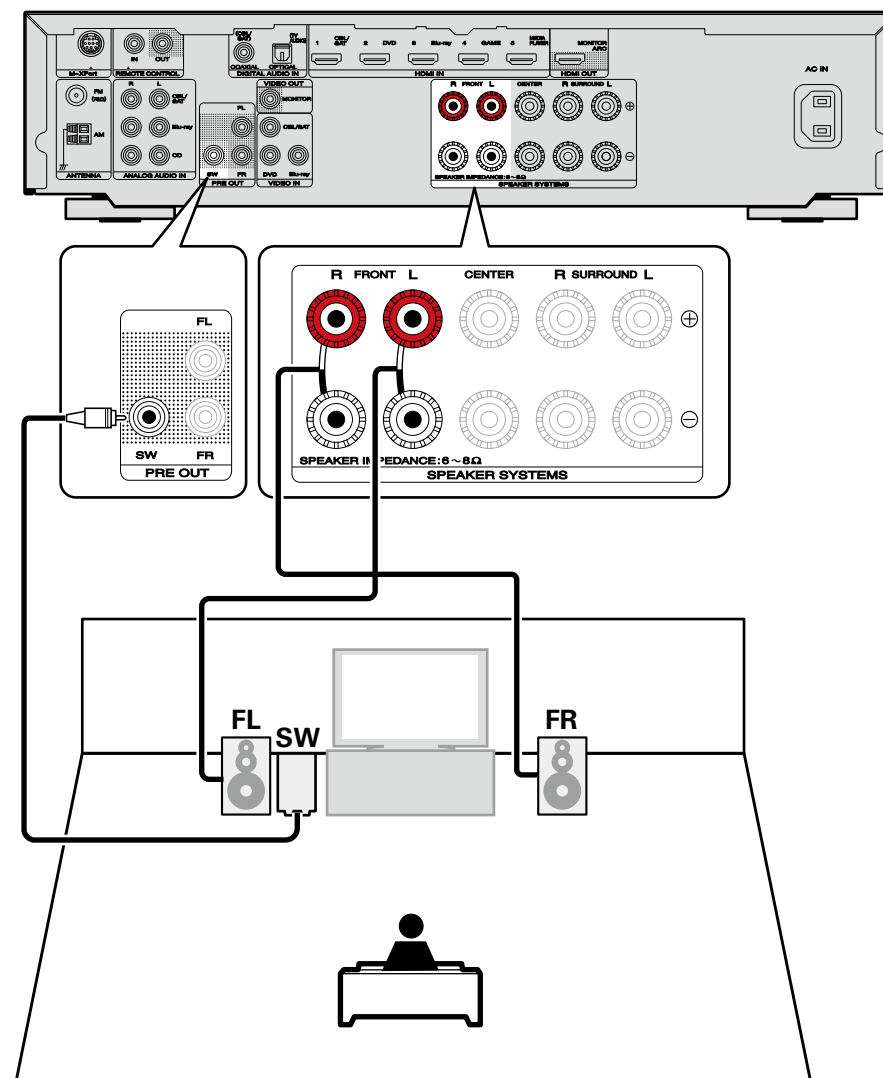
2.1 チャンネルのスピーカーを接続する

接続に使用するケーブル

音声ケーブル(別売り)	
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	

ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、[48 ページ](#)をご覧ください。



パワーアンプを使用してフロントスピーカーを接続する

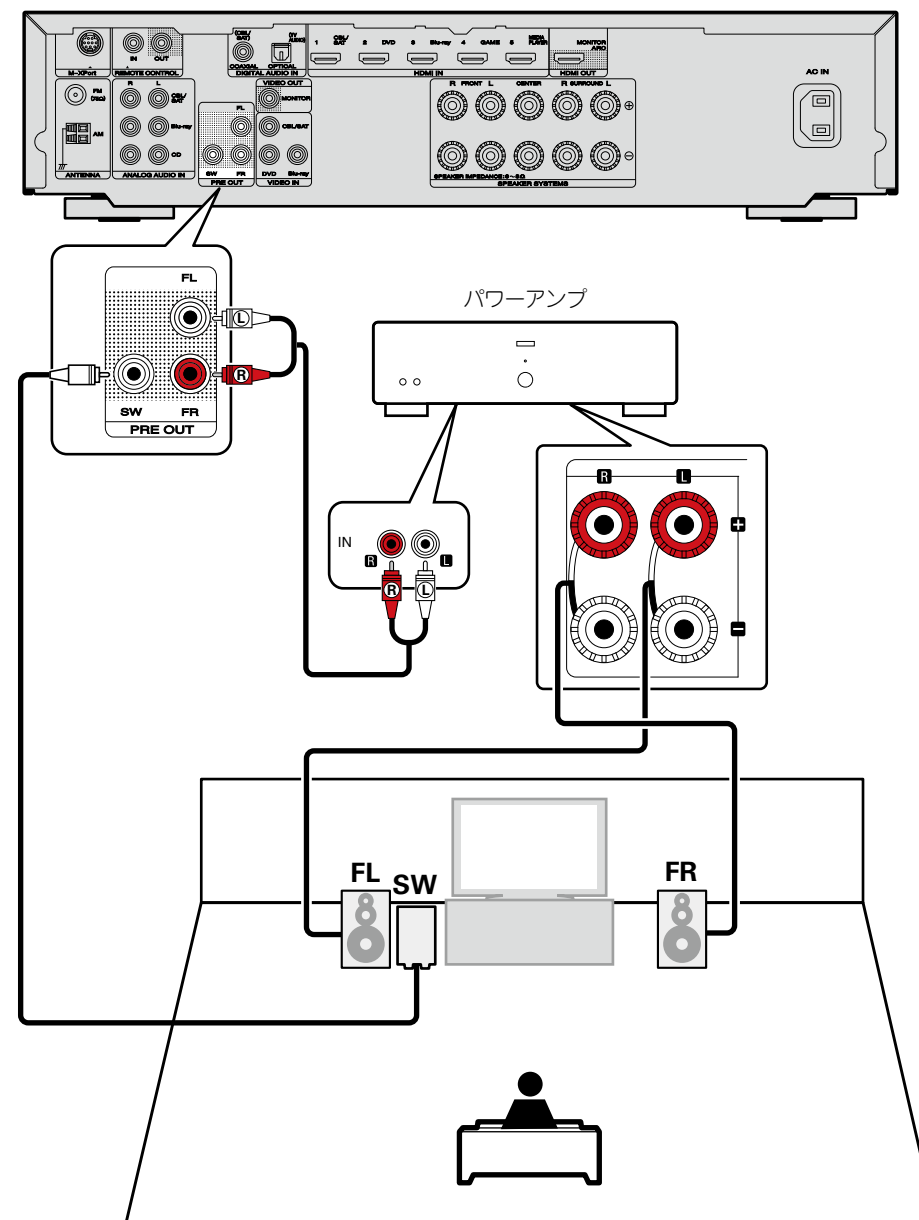
本機は、外部のパワーアンプを使用して出力を高めたフロントスピーカーの接続がおこなえます。別売りのパワーアンプを本機の PRE OUT (FL/FR) 端子に接続してください。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル(別売り)	
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	

ご注意

スピーカーケーブルの接続方法およびスピーカーインピーダンスについては、[48 ページ](#)をご覧ください。

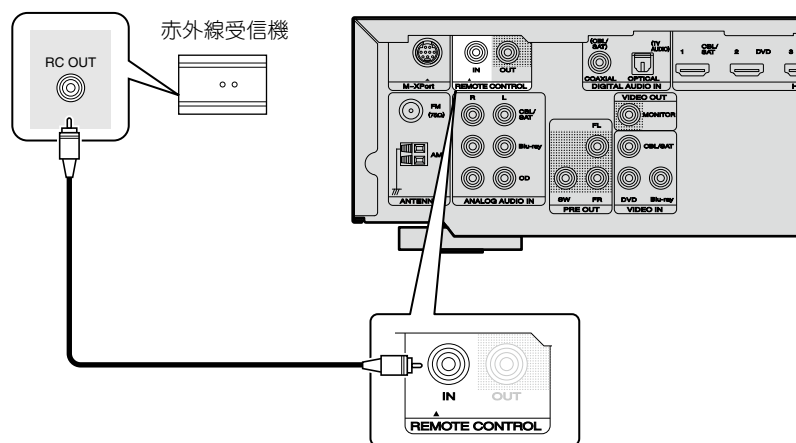


接続のしかた（応用接続）

リモートコントロール端子に接続する

本機や外部機器を操作する

- 赤外線受信機を本機に接続すると、付属のリモコンで本機や外部機器を操作できます。
- この操作をおこなう場合、「リモートロック機能」(P.56 ページ) でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。

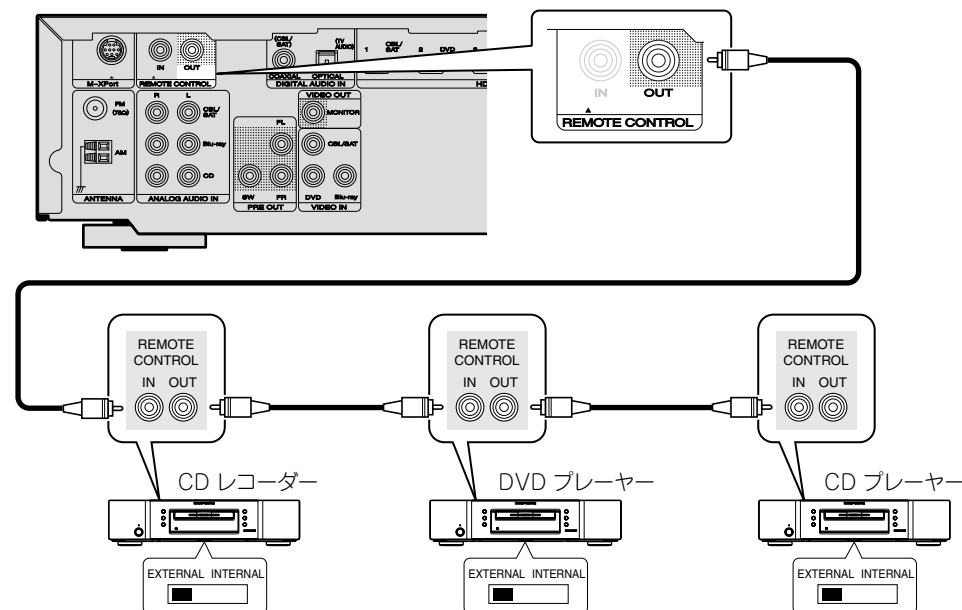


ご注意

赤外線送受信機を接続しない場合は、必ずリモコン信号の受信機能を有効に設定してください。無効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。

マランツ製機器をリモート接続する

- リモート接続に対応しているマランツ製機器をお使いの場合は、赤外線受信機は必要ありません。
- モノラルケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。
- この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”に設定してください。
- マランツ製パワーアンプ(一部のモデルを除く)をこれらのいずれかの端子に接続すると、本機の **ON/STANDBY** ボタンに連動して、パワーアンプの電源がオン / スタンバイします。



再生のしかた（応用操作）

設定のしかた (🔗24 ページ)

再生のしかた（基本操作） (🔗31 ページ)

リスニングモードを選ぶ（サウンドモード）
(🔗41 ページ)

接続のしかた（応用接続） (🔗52 ページ)

- HDMI コントロール機能 (🔗53 ページ)
- スリープタイマー機能 (🔗54 ページ)
- デュアルバックアップメモリー機能 (🔗55 ページ)
- フロントキーロック機能 (🔗55 ページ)
- リモートロック機能 (🔗56 ページ)
- 各種メモリー機能 (🔗57 ページ)

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

□HDMI コントロール機能でできること

- テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
- テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。
テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
- テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。
- プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。
- 本機の入力ソースを“TV AUDIO”にすると、テレビの音声を本機で再生できます(🔗11 ページ「ARC (Audio Return Channel) 機能について」)。
- メニューの“HDMI コントロール”(🔗69 ページ)を“オン”に設定している場合、本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します(パススルー機能)。



- ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください(🔗11 ページ)。
- パススルー機能を使用するには、HDMI コントロール対応の HDMI 機器を接続してください。

□設定のしかた

- 1** 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール”(🔗69 ページ)を“オン”に設定してください。
- 2** HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 3** HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
 - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
 - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
- 4** テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。
- 5** 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。
- 6** テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。



HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの“HDMI コントロール”(🔗69 ページ)の設定が“オン”になっているか。
- メニューの“パワーオフコントロール”(🔗69 ページ)の設定が“すべて”または“ビデオ”になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

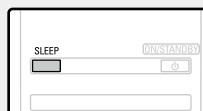
- メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定している場合は、接続しているテレビの電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
 - HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

スリープタイマー機能

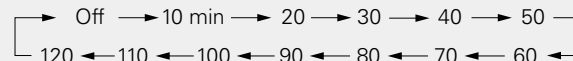
設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

ディスプレイの **SLEEP** 表示が点灯します。



- SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。



- 本体の **SLEEP** を押しても、スリープタイマーを設定できません。

スリープタイマーの残り時間を確認する

SLEEP を押す。

ディスプレイに“Sleep : *min”を表示します。

* 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“Off”を選ぶ。

ディスプレイの **SLEEP** 表示が消灯します。



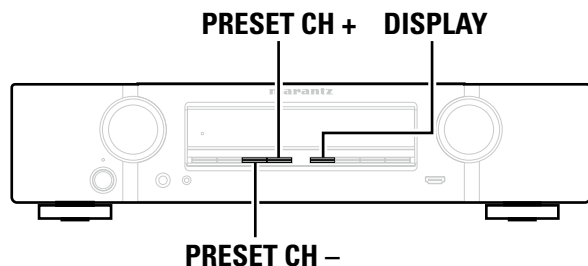
本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

デュアルバックアップメモリー機能

- 本機は電源を切った状態でも設定した各種内容を記憶し、いつでもその設定を呼び出せます。
- デュアルバックアップメモリー機能は、記憶した内容をさらに別のメモリーエリアに書き込み、バックアップしていつでもその設定を呼び出せます(バックアップ)。



□設定した内容を記憶させる(バックアップ)

本機を記憶させたい状態に設定し、**PRESET CH +** と **PRESET CH -** を同時に 3 秒以上押す。

ディスプレイに“MEMORY SAVING”を表示し、設定した内容を記憶します。

ご注意

- 音量は記憶できません。
- 記憶させた内容に上書きすると、前に記憶させた内容は消去されます。

□記憶させた内容を呼び出す(リカバリー)

PRESET CH + と **DISPLAY** を同時に 3 秒以上押す。

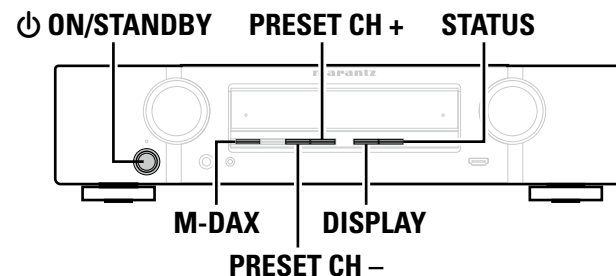
ディスプレイに“MEMORY LOAD”を表示し、記憶させた内容を呼び出します。

ご注意

- 記憶させたデータが存在しない場合は、“NO BACKUP”を表示し、記憶させた内容を呼び出せません。
- 音量は記憶できないため、お買い上げ時の設定になります。

フロントキーロック機能

本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にすることができます。



□すべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**DISPLAY** と **M-DAX** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2 **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押して、“FP/VOL LOCK On”を選ぶ。
- 3 **STATUS** を押して、設定を確定する。
ON/STANDBY 以外のボタン操作が無効になります。

□VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**DISPLAY** と **M-DAX** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2 **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押して、“FP LOCK On”を選ぶ。
- 3 **STATUS** を押して、設定を確定する。
ON/STANDBY および **VOLUME** 以外のボタン操作が無効になります。

□フロントキーロック機能を解除する

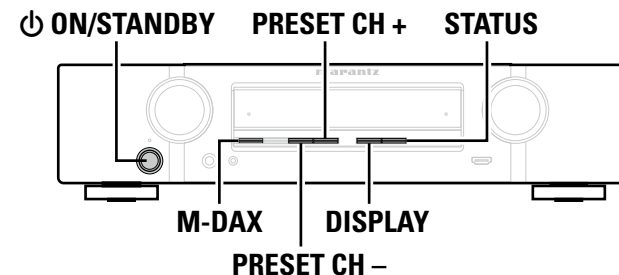
- 1** 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**DISPLAY** と **M-DAX** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2** **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押して、“FP LOCK Off”を選ぶ。
（* は現在の設定モードです。）
- 3** **STATUS** を押して、設定を確定する。
フロントキーロック機能を解除します。



フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。

リモートロック機能

- 本機に赤外線受信機を接続しない場合は、リモートロック機能を無効に設定してください。有効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。
- お買い上げ時は無効に設定されています。



□リモコンの受信機能を無効にする

- 1** 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**DISPLAY** と **M-DAX** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2** **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押して、“RC LOCK On”を選ぶ。
（* は現在の設定モードです。）
- 3** **STATUS** を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が無効になります。

□リモコンの受信機能を有効にする

- 1** 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**DISPLAY** と **M-DAX** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2** **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押して、“RC LOCK Off”を選ぶ。
（* は現在の設定モードです。）
- 3** **STATUS** を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が有効になります。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、サウンドモード、HDMI 出力モード、MultEQ[®]、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。



サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

詳細設定のしかた

メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
本機はお買い上げ時の設定をおすすめの設定にしています。お使いのシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

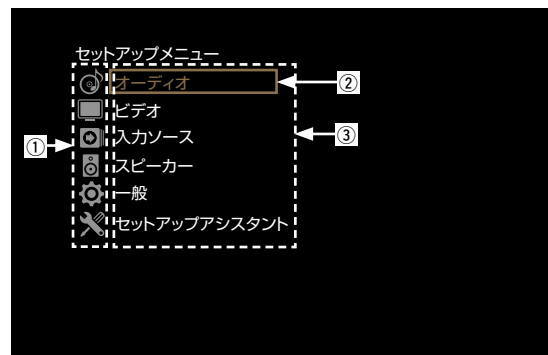
設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 オーディオ	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	63
	トーンコントロール	トーンを調節します。	64
	ダイアログレベル	センターチャンネルから出力されるせりふを聞きやすくするために出力レベルを設定します。	64
	サブウーハーレベル	サブウーハー出力のオン / オフおよび出力レベルを設定します。	64
	M-DAX	MP3、WMA(Windows Media Audio)やMPEG-4 AAC などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	65
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	65
	音量	音量を設定します。	65
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	65
	Audyssey	Audyssey MultEQ [®] 、Audyssey Dynamic EQ [®] と Audyssey Dynamic Volume [®] の設定をします。	66
	マニュアル EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	67
 ビデオ	HDMI 設定	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	69
	音量の表示	主音量レベルの表示位置を設定します。	69
	情報の表示	サウンドモードの変更や入力ソースの切り替え、または音量調節時に一時的に操作の状態を表示します。これらの各状態表示をするかしないかの設定をします。	70
	再生画面の表示	入力ソースが“TUNER”のとき、各メニューの表示時間を設定します。	70
	TV フォーマット	お使いになるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	70

設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 入力ソース	デジタルオーディオ端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	72
	入力ソース名の変更	選択した入力ソースの表示名を変更します。	73
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	73
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	73
	オーディオ入力端子の選択	入力モードとデコードモードを設定します。	73
	映像の選択	今聴いている音声に好きな映像を組み合わせで再生します。	74
 スピーカー	Audyssey [®] セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	24
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey [®] セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。	76
 一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	80
	オートスタンバイ	音声や映像の入力がない状態で本機を設定した時間操作しないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる前には、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。	80
	フロントディスプレイ	本体のディスプレイの明るさを調節します。	80
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	81
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	81
 セットアップ アシスタント	テレビ画面の案内に沿って基本的な設置 / 接続 / 設定をおこないます。		 8

メニュー画面の表示例

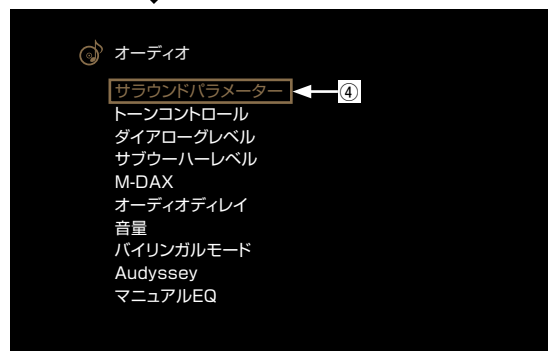
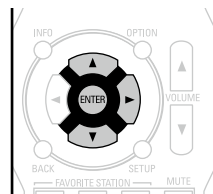
代表例を説明します。

【例 1】 メニュー選択画面(トップメニュー)



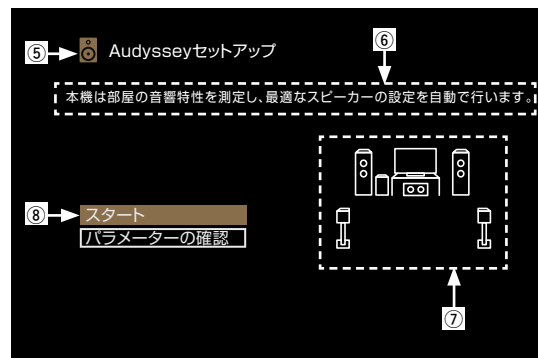
- ① GUI メニューの設定アイコン一覧
- ② 選択中の設定項目名
- ③ GUI メニューの設定項目一覧

△▽を押して“オーディオ”
を選び、▷を押す。
(または、ENTER を押す。)



- ④ 選択中の設定項目名

【例 2】 Audyssey® セットアップ画面(イラスト付き)



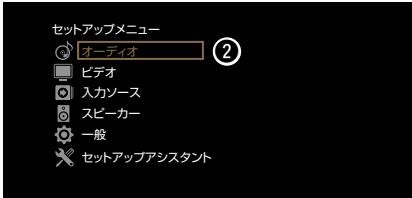
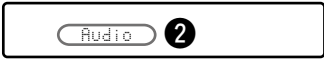
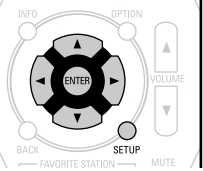
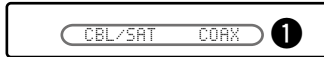
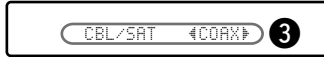
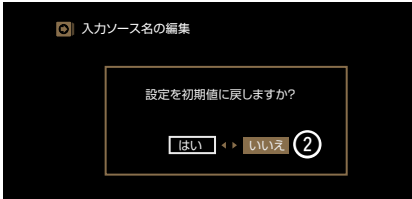
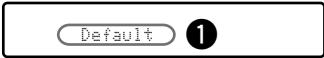
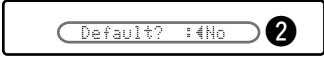
- ⑤ 選択中の設定アイコン
- ⑥ 操作ガイドテキスト
- ⑦ イラスト
- ⑧ 設定項目名

ご注意

コンピューター解像度(例：VGA)の映像または一部の3Dビデオコンテンツを再生中にメニューを操作すると、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説 明
トップメニューの表示			① SETUPを押して、メニュー画面を表示します。 ② テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 設定したい項目に移動するときは、△▽を押します。 
設定を変更するときの表示	 ↓ ENTERを押す。 	 ↓ ENTERを押す。 	① テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 設定したい項目に移動するときは、△▽を押します。 ② ENTERを押して、設定したい項目を選びます。 ③ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀▶ を表示します。◀▶を押して、設定を変更します。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	 ↓ ENTERを押す。 	 ↓ ENTERを押す。 	① △を押して“初期化”を選び、ENTERを押して設定します。 ② ◀を押して“はい”を選び、ENTERを押します。

文字入力について

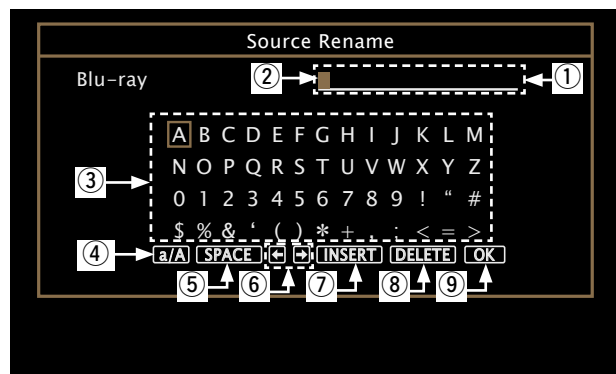
本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更できます。

- プリセットネーム (P.38 ページ)
- 入力ソース名の変更 (P.73 ページ)

キーボード画面で名前を入力する

テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。

□キーボード入力画面

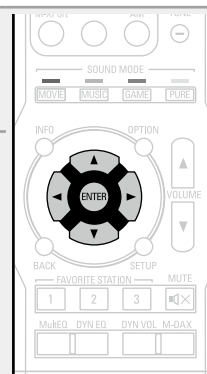


- ① 文字入力部
- ② カーソル
- ③ キーボード部
- ④ 大文字/小文字の切り替え
- ⑤ スペース入力キー
- ⑥ カーソル移動キー
- ⑦ 挿入キー
- ⑧ 削除キー
- ⑨ OKキー

□入力のしかた

1 文字の入力をおこなう画面を表示する(P.58 ページ「メニュー一覧」)。

2 変更したい文字を選ぶ。
① △▽◀▶ を押して、**←** または **→** を選ぶ。
② **ENTER** を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが1文字ずつ移動します。



3 △▽◀▶ を押して入力したい文字を選び、**ENTER** を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 数字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789
! " # \$ % & ' () * + , ; < = >
【英小文字 / 数字 / 記号】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
. @ - _ / : ; ~ ? [\] ^ ' { | }

- 文字を入力中に △▽ を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

4 手順 2、3 をくり返して、名前を変更する。

5 △▽◀▶ を押して **OK** を選び、**ENTER** を押す。



オーディオ



音声に関する設定をします。

メニューの操作のしかた

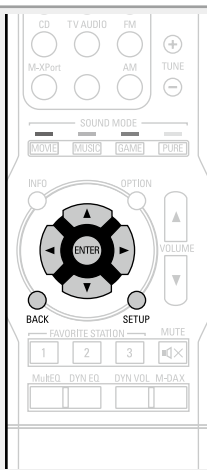
1 SETUP を押す。

テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

3 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“オーディオ”メニューでできること

サラウンドパラメーター (🔗 63 ページ)

トーンコントロール (🔗 64 ページ)

ダイアログレベル (🔗 64 ページ)

サブウーハーレベル (🔗 64 ページ)

M-DAX (🔗 65 ページ)

オーディオディレイ (🔗 65 ページ)

音量 (🔗 65 ページ)

バイリンガルモード (🔗 65 ページ)

Audyssey (🔗 66 ページ)

マニュアル EQ (🔗 67 ページ)

サラウンドパラメーター

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。

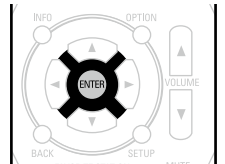
調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」([89 ページ](#))をご覧ください。

ご注意

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- サウンドモードが“PURE DIRECT”のとき、“サラウンドパラメーター”の設定はできません。

設定項目	設定内容
ホームシアターEQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	オン ：“ホームシアターEQ”を使用します。 オフ ：“ホームシアターEQ”を使用しません。
ラウドネスマネージメント Dolby TrueHD ソースのときに設定できます。“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。	オン ：“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力します。 オフ ：“ダイナミックレンジ圧縮”の設定および“ダイアログノーマライゼーション”(81 ページ)が無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。
ダイナミックレンジ圧縮 ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	オート ：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。 弱 / 中 / 強 ：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 オフ ：ダイナミックレンジを圧縮しません。 “オート”は Dolby TrueHD ソースのときのみ設定できます。
LFE 低域信号(LFE)レベルを調節します。	-10dB ~ 0dB 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 - Dolby Digital ソース：“0dB” - DTS の映画ソース：“0dB” - DTS の音楽ソース：“-10dB”

設定項目	設定内容
センターイメージ センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが DTS NEO:6 の“Music”モードのときに設定できます。	0.0 ~ 1.0 (0.3) 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。
パノラマ フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが Dolby PLII の“Music”モードのときに設定できます。	オン ：設定します。 オフ ：設定しません。
ディメンション 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。サウンドモードが Dolby PLII の“Music”モードのときに設定できます。	0 ~ 6 (3) 数値が小さくなるほど、サラウンド音場は後方に移動し、数値が大きくなるほど、サラウンド音場は前方に移動します。
センター幅 センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが Dolby PLII の“Music”モードのときに設定できます。	0 ~ 7 (3) 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネル集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。
初期化 “サラウンドパラメーター”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。	はい ：お買い上げ時の設定に戻します。 いいえ ：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、 ENTER を押してください。



トーンコントロール

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
トーンコントロール トーンコントロール機能の“オン”と“オフ”の設定をします。	オン ：低音や高音のトーンを調節できます。 オフ ：トーンを調節せずに再生します。  メニューの“Dynamic EQ” (図 66 ページ) の設定が“オフ”のときに設定できます。 ご注意 サウンドモードが“DIRECT”または“PURE DIRECT”のとき、トーンの調節はできません。
低音 低音を調節します。	-6dB ~ +6dB (0dB)  メニューの“トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
高音 高音を調節します。	-6dB ~ +6dB (0dB)  メニューの“トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。

ダイアログレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

センターチャンネルから出力されるセリふを聞きやすくするために出力レベルを設定します。

設定項目	設定内容
ダイアログ	-12dB ~ +12dB (0dB)

サブウーハーレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

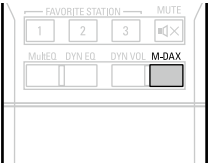
サブウーハー出力のオン / オフおよび出力レベルを設定します。

設定項目	設定内容
サブウーハー サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	オン ：出力します。 オフ ：出力しません。  サウンドモードが“DIRECT”または“PURE DIRECT” (図 41 ページ) で、メニューの“サブウーハーモード” (図 76 ページ) の設定が“LFE+ メイン”のときに設定できます。
サブウーハーレベル サブウーハーの出力レベルを設定します。	-12dB ~ +12dB (0dB)

M-DAX

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MP3、WMA(Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“M-DAX”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定項目	設定内容
M-DAX “M-DAX”のモードを設定します。	オフ：“M-DAX”を使用しません。 強：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです(64kbps 以下)。 中：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します(96kbps 以下)。 弱：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです(96kbps 以上)。  - アナログ入力や PCM 信号(サンプリング周波数 = 44.1/48 kHz)が入力されたときに設定できます。 “M-DAX”の設定は、入力ソースごとに記憶します。 “オフ”以外に設定すると、ディスプレイの M-DAX 表示が点灯します。 - サウンドモードが“DIRECT”または“PURE DIRECT”のときは設定できません。 - 本体の M-DAX を押しても、M-DAX の設定ができます。 本体の M-DAX を押すたびに、M-DAX のモードが次の順序で切り替わります。 → オフ → 弱 ← 強 ← 中 ← 

オーディオディレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容
0ms～200ms

- メニューの“オートリップシンク”(156 ページ)の設定が“オン”のとき、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0～100ms の範囲で設定できます。 “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

音量

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音量を設定します。

設定項目	設定内容
表示方法 音量の表示方法を設定します。	0～98：0.5(最小)～98 の範囲で表示します。 -79.5dB～18.0dB：---dB(最小)、-79.5dB～18.0dB の範囲で表示します。  “表示方法”を設定すると、“音量の上限”や“電源オン時の音量”の表示方法も切り替わります。
音量の上限 音量の上限を設定します。	オフ：音量の上限を設定しません。 60 (-20dB) / 70 (-10dB) / 80 (0dB)
電源オン時の音量 電源をオンにしたときの音量を設定します。	前回の音量：前回使用したときの音量になります。 消音：常に消音状態になります。 1～98 (-79dB～18dB)：設定した音量になります。
ミュートイングレベル ミュートイング時の音量の減衰量を設定します。	消音：消音状態になります。 -40dB：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 -20dB：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

バイリンガルモード

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。

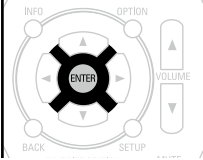
設定内容
主音声：主音声のみ出力します。 副音声：副音声のみ出力します。 主 / 副：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 主 + 副：主音声と副音声をミックスして出力します。  このモードは、二重音声のソースを再生中のみ有効です。

設定項目	設定内容
Dynamic Volume テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。	Heavy：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 Medium：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 Light：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 オフ：“Dynamic Volume”を使用しません。  “Heavy”、“Medium”または“Light”に設定すると、AUDYSSEY 表示が点灯します。 - Audyssey® セットアップ(図28 ページ)で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。 - 本体の DYN VOL を押しても、Dynamic Volume の設定ができます。本体の DYN VOL を押すたびに、Dynamic Volume のモードが次の順序で切り替わります。 オフ → Heavy Light ← Medium 1 2 3  MULTI EQ DYN VOL DYN VOL M-DAY 

マニュアル EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“マニュアル EQ”は、“MultEQ®”([図66 ページ](#))の設定が“マニュアル EQ”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
スピーカーの選択方法 スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選びます。	すべて：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 左右：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 各スピーカー：スピーカーごとに音色を調節します。
イコライザーの調節 周波数帯域ごとの音色を調節します。“スピーカーの選択方法”で選んだスピーカーを調節します。	① スピーカーを選択する。 ② 調節する周波数帯を選択する。 63Hz / 125Hz / 250Hz / 500Hz / 1kHz / 2kHz / 4kHz / 8kHz / 16kHz • “左右”や“各スピーカー”を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ③ レベルを調節する。 -20.0dB ~ +6.0dB (0.0dB)
カーブコピー MultEQ® の“Audyssey Flat”(図66 ページ)の補正カーブをコピーします。	はい：コピーをします。 いいえ：コピーをしません。  “カーブコピー”は、Audyssey® セットアップをおこなったあとに表示します。 “カーブコピー”を選んで ENTER を押すと、“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーしますか？というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。
初期化 “マニュアル EQ”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。	はい：お買い上げ時の設定に戻します。 いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。  “初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。 



映像に関する設定をします。

メニューの操作のしかた

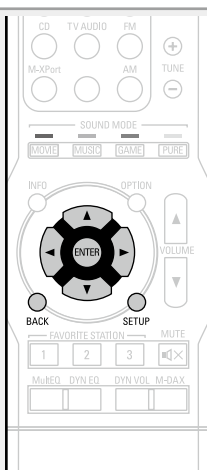
1 SETUP を押す。

テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

3 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“ビデオ”メニューでできること

HDMI 設定 (🔗 69 ページ)

音量の表示 (🔗 69 ページ)

情報の表示 (🔗 70 ページ)

再生画面の表示 (🔗 70 ページ)

TV フォーマット (🔗 70 ページ)

HDMI 設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
オートリップシンク 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	オン ：補正します。 オフ ：補正しません。
HDMI 音声出力 HDMI の音声の出力先を設定します。	AV アンプ ：本機に接続したスピーカーで再生します。 TV ：本機に接続したテレビで再生します。  - HDMI 音声出力を“TV”に設定することで、HDMI 入力端子からの音声信号を HDMI 出力端子に出力することができます。アナログ入力端子やデジタル入力端子(OPTICAL) から入力される音声信号を HDMI 出力端子に出力することはできません。 - HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します (p.53 ページ「HDMI コントロール機能」)。
HDMI コントロール HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	オン ：HDMI コントロール機能を使用します。 オフ ：HDMI コントロール機能を使用しません。  - HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、“HDMI コントロール”を“オフ”に設定してください。 - 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 - HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」(p.53 ページ)をご覧ください。 ご注意 “HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 - HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 “HDMI コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

設定項目	設定内容
スタンバイ時の HDMI 入力 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	最後のソース ：前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。 CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / MEDIA PLAYER / AUX ：それぞれの入力端子に割り当てた入力ソースのままスタンバイします。  “スタンバイ時の HDMI 入力”は、メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”のときに設定できます。
パワーオフコントロール 本機と外部機器の電源オフを連動します。	すべて ：本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 ビデオ ：本機の入力ソースが CBL/SAT、DVD、Blu-ray、GAME、MEDIA PLAYER または AUX のときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 オフ ：本機はテレビの電源に連動しません。  “パワーオフコントロール”は、メニューの“HDMI コントロール”が“オン”のときに設定できます。

音量の表示

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

主音量レベルの表示位置を設定します。

設定項目	設定内容
音量	下 ：画面下に表示します。 上 ：画面上に表示します。 オフ ：表示しません。  主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

情報の表示

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サウンドモードの変更や入力ソースの切り替え時に一時的に操作の状態を表示します。これらの各状態表示をするかしないかの設定をします。

設定項目	設定内容
情報	<u>オン</u> ：表示します。 <u>オフ</u> ：表示しません。

再生画面の表示

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

入力ソースが“TUNER”のとき、各メニューの表示時間を設定します。

設定項目	設定内容
再生画面	<u>常に表示</u> ：常に表示します。 <u>30s</u> ：約 30 秒間表示します。 <u>10s</u> ：約 10 秒間表示します。 <u>オフ</u> ：表示しません。

TV フォーマット

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

お使いになるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

設定項目	設定内容
フォーマット	<u>NTSC</u>：NTSC 方式で出力します。 <u>PAL</u>：PAL 方式で出力します。  “フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。 1. 通常の画面を表示しているときに、本体の PRESET CH - と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに“V.Format:<NTSC>”を表示します。 2. 本体の PRESET CH + または PRESET CH - を押して、映像信号方式を選ぶ。 3. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。 ご注意 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。



入力ソース



現在選択している入力ソースに関する設定をします。

- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

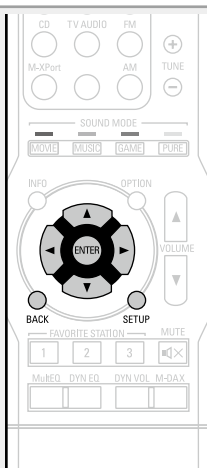
1 SETUP を押す。

テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

3 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するとき、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



知っておいてほしいこと

□本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

CBL/SAT DVD Blu-ray GAME MEDIA PLAYER TV AUDIO AUX CD TUNER M-XPOR

ご注意

メニューの“使用ソースの選択”([73 ページ](#))で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。

“入力ソース”メニューでできること

デジタルオーディオ端子の割り当て ([72 ページ](#))

入力ソース名の変更 ([73 ページ](#))

使用ソースの選択 ([73 ページ](#))

ソースレベル ([73 ページ](#))

オーディオ入力端子の選択 ([73 ページ](#))

映像の選択 ([74 ページ](#))

デジタルオーディオ端子の割り当て

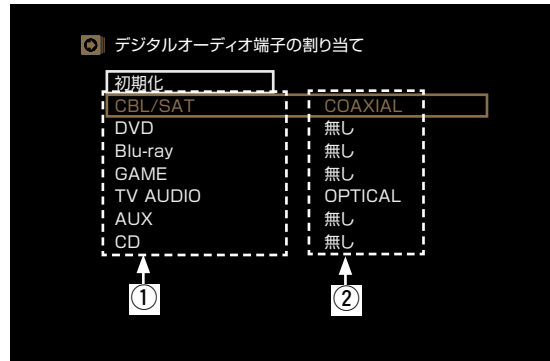
本機の音声端子にはお買い上げ時の設定で“CBL/SAT”などの入力ソースが割り当てられています。お買い上げ時の設定どおりに接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

お買い上げ時の設定と異なる接続をおこなう場合は、この項目で設定を変更する必要があります。

“デジタルオーディオ端子の割り当て”メニュー画面の表示例

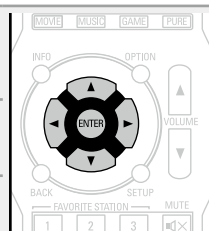
この画面は、メニューの“入力ソース”⇒“各入力ソース”⇒“デジタルオーディオ端子の割り当て”を選択したときに表示します。

この“デジタルオーディオ端子の割り当て”メニューでは、①各入力ソースに対して、お買い上げ時の設定で割り当てられている②デジタル端子を変更することができます。



“デジタルオーディオ端子の割り当て”メニューの操作のしかた

- 1 △▽◀▶ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、**ENTER** を押す。
- 2 ◀▶ を押して、入力端子を割り当てる。
- 3 **ENTER** を押して、設定を確定する。



設定項目

DIGITAL
入力ソースに割り当てられて
いるデジタル入力端子を変更
するときに設定します。

CBL/SAT

DVD

Blu-ray

GAME

MEDIA PLAYER

AUX

TV AUDIO

CD

COAXIAL / OPTICAL：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割
り当てます。
無し：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。

• 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース

CBL/SAT

DVD

Blu-ray

GAME

お買い上げ時の設定

COAXIAL

無し

無し

無し

入力ソース

MEDIA
PLAYER

TV AUDIO

AUX

CD

お買い上げ時の設定

無し

OPTICAL

無し

無し

初期化
変更した入力ソース名をお買
い上げ時の設定に戻します。

はい：お買い上げ時の設定に戻します。
いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。

“初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を
初期値に戻しますか？”というメッセージが表
示されますので、“はい”または“いいえ”を選
び、ENTER を押してください。

INFO

OPTION

VOLUME

BACK

SETUP

ENTER

入力ソース名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。
お使いの機器の入力ソース名と本機の入力ソース名が異なっている場合に便利です。お好みに合わせて変更できます。変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。

設定内容

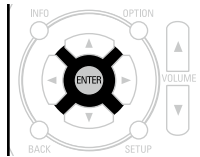
CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / MEDIA PLAYER / TV AUDIO / AUX / CD / M-XPort : 選択した入力ソースの表示名を変更します。

- 12 文字まで入力できます。
- 文字の入力方法については、[61 ページ](#)をご覧ください。

初期化 : 変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。

- **はい** : お買い上げ時の設定に戻します。
- **いいえ** : お買い上げ時の設定に戻しません。

 “初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。



使用ソースの選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

設定内容

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / MEDIA PLAYER / TV AUDIO / AUX / CD / TUNER / M-XPort : 使用しない入力ソースを選びます。

- **使用する** : 選んだ入力ソースを使用します。
- **使用しない** : 選んだ入力ソースを使用しません。

ご注意

“使用しない”に設定した入力ソースは、入力ソース選択ボタンを操作しても選べません。

ソースレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容

-12dB ~ +12dB (0dB)

 メニューの“デジタルオーディオ端子の割り当て”([172 ページ](#))の設定で、“DIGITAL”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

オーディオ入力端子の選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目

設定内容

入力モード

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“オート”に設定することをおすすめします。

オート : 本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI : HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
デジタル : デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。
アナログ : アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。



- “デジタル”は、メニューの“デジタルオーディオ端子の割り当て”([172 ページ](#))で“DIGITAL”を割り当てた入力ソースのときに選択できます。
- 入力ソースが“CBL/SAT”、“Blu-ray”または“CD”のときは、“アナログ”に設定できます。
- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの **DIG** 表示が点灯します。**DIG** 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当て“デジタルオーディオ端子の割り当て”([172 ページ](#))や接続を確認してください。
- メニューの“HDMI コントロール”([169 ページ](#))の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV AUDIO”のときの入力モードは ARC 固定になります。

設定項目	設定内容
デコードモード 入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。	オート ：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 PCM ：PCM 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。 DTS ：DTS 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。
CBL/SAT DVD Blu-ray GAME MEDIA PLAYER AUX TV AUDIO CD	 - メニューの“デジタルオーディオ端子の割り当て”(図72 ページ)の設定で“DIGITAL”に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 - 通常は、“オート”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

映像の選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

今聴いている音声に好きな映像を組み合わせで再生します。

設定項目	Setting details
ビデオセレクト	入力ソース ：入力ソースの映像と音声を再生します。 CBL/SAT / DVD ：見たい映像の入力ソースを選びます。今聴いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせで再生します。入力ソースごとに設定できます。
	ご注意 - HDMI 入力信号は選べません。 - メニューの“使用ソースの選択”(図73 ページ)で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。



スピーカー

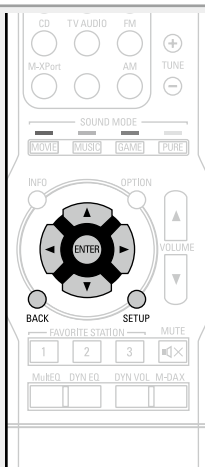


Audyssey® セットアップの設定内容を変更するときに設定します。

- Audyssey® セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ®, Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の選択ができなくなります (🔗 [66 ページ](#))。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

- 1 SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。
- 2** △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。
- 3 ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
 - メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“スピーカー”メニューでできること

スピーカーを設定する (Audyssey® セットアップ) (🔗 [24 ページ](#))

マニュアルセットアップ (🔗 [76 ページ](#))

マニュアルセットアップ

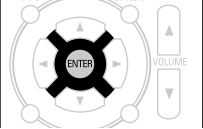
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

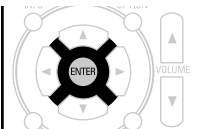
スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey® セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey® セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ®, Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の選択ができなくなります([図 66 ページ](#))。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
スピーカーの構成 スピーカーのあり・なしや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。	フロント ：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。  • “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。 • “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”および“サラウンド”を“大”に設定することはできません。 センター ：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：センタースピーカーを使用しません。  “フロント”の設定が“小”の場合、“大”は表示しません。
	サブウーハー ：サブウーハーの有無を設定します。 • 有り：サブウーハーを使用します。 • 無し：サブウーハーを使用しません。  “フロント”の設定が“小”の場合、“サブウーハー”の設定は自動的に“有り”になります。
	サラウンド ：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：サラウンドスピーカーを使用しません。

設定項目	設定内容
低音 サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	サブウーハーモード ：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • LFE：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • LFE+ メイン：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。  • “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカーの構成”⇒“サブウーハー”(図 76 ページ)の設定が“有り”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+ メイン”に設定してください。 ご注意 メニューの“スピーカーの構成”⇒“フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声出力されない場合があります。 LFE 用ローパスフィルター ：LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。 • 80Hz / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 150Hz / 200Hz / 250Hz

設定項目	設定内容
距離 リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	単位：距離の単位を設定します。 • メートル / フィート ステップ：距離の最小可変幅を設定します。 • 0.1m / 0.01m • 1ft / 0.1ft 初期化：“距離”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • はい：お買い上げ時の設定に戻します。 • いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。  “初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。  フロント左 / フロント右 / センター / サブウーハー / サラウンド左 / サラウンド右：距離を設定するスピーカーを選択します。 • 0.00m～18.00m / 0.0ft～60.0ft：距離を設定します。  お買い上げ時の設定： - フロント左 / フロント右 / センター / サブウーハー：3.60 メートル (12.0 フィート) - サラウンド左 / サラウンド右：3.00 メートル (10.0 フィート) • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル (20.0 フィート) 以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの“スピーカーの構成”(76 ページ)で、“無し”に設定したスピーカーは表示しません。

設定項目	設定内容
レベル 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	テストトーン開始：テストトーンを出力します。 • フロント左 / センター / フロント右 / サラウンド右 / サラウンド左 / サブウーハー：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 • -12.0dB～+12.0dB (0.0dB)：音量を調節します。  “レベル”を調節すると、調節した値をすべてのサウンドモードに対して設定します。 ご注意 • メニューの“スピーカーの構成”(76 ページ)で、“無し”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホン挿入している場合は、“レベル”を表示しません。 初期化：“レベル”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • はい：お買い上げ時の設定に戻します。 • いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。  “初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。 

設定項目	設定内容
クロスオーバー周波数 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	クロスオーバー：クロスオーバー周波数を設定します。 • 40Hz / 60Hz / 80Hz / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 150Hz / 200Hz / 250Hz / スピーカー別：すべてのスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。 次の設定は“クロスオーバー”の設定が“スピーカー別”のときに設定できます。 • フロント / センター / サラウンド：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • 40Hz / 60Hz / 80Hz / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 150Hz / 200Hz / 250Hz：クロスオーバー周波数を設定します。  • “クロスオーバー周波数”は、メニューの“低音”⇒“サブウーハーモード”の設定 (76 ページ) が“LFE+ メイン”のとき、または“小”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “小”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの“サブウーハーモード” (76 ページ) の設定により、“スピーカー別”で設定できるスピーカーが異なります。 • “LFE”の場合は、“スピーカーの構成”で“小”に設定しているスピーカーの設定ができます。“大”に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。 • “LFE+ メイン”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。



その他の設定をします。

メニューの操作のしかた

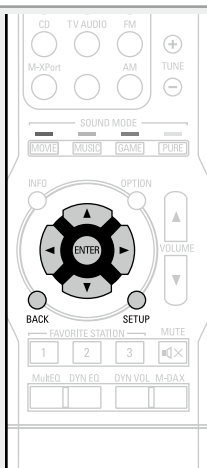
1 SETUP を押す。

テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

3 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“一般”メニューでできること

言語 (🔗 80 ページ)

オートスタンバイ (🔗 80 ページ)

フロントディスプレイ (🔗 80 ページ)

情報 (🔗 81 ページ)

セットアップロック (🔗 81 ページ)

言語

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

テレビ画面に表示する言語を設定します。

設定内容

日本語 / English



“言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 通常の画面を表示しているときに、本体の **PRESET CH -** と **STATUS** を同時に 3 秒以上長押しする。ディスプレイに“V.Format:<NTSC>”を表示します。
2. 本体の **DISPLAY** を押して、“Lang.:<JAPANESE>”を選ぶ。
3. 本体の **PRESET CH +** または **PRESET CH -** を押して、言語を設定する。
4. 本体の **STATUS** を押して、設定を終了する。

オートスタンバイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声や映像の入力がない状態で本機を設定した時間操作しないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる前には、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

設定内容

30min : 約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。

60min : 約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。

オフ : 自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

フロントディスプレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

本体のディスプレイの明るさを調節します。

設定項目

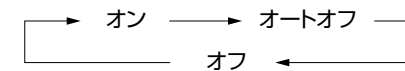
設定内容

表示

オン : ディスプレイを常に点灯します。
オートオフ : 状態表示以外はディスプレイを消灯します。
オフ : ディスプレイを消灯します。



ディスプレイの明るさは、本体の **DISPLAY** を押しても調節できます。
DISPLAY を押すたびに、ディスプレイの明るさが次の順序で切り替わります。



ご注意

“表示”を“オフ”に設定すると、ディスプレイが消灯し、通電されていない状態と同様になります。

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

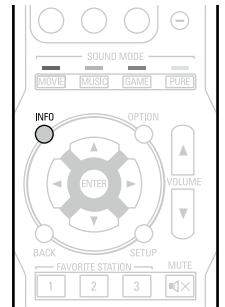
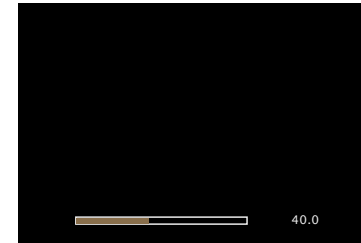
設定項目	設定内容
オーディオ 現在の設定状態を表示します。	サウンドモード ：設定しているサウンドモード 信号 ：入力信号の種類 フォーマット ：入力信号のチャンネル数(フロント / サラウンド / LFE の有無) サンプリング周波数 ：入力信号のサンプリング周波数 オフセット ：ダイアログノーマライゼーションの補正值 ダイアログノーマライゼーション機能について Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正值は、本体の STATUS を押しても確認できます。 Offset: - 4dB 数字は補正值です。変更できません。
ビデオ HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	信号情報 ・解像度 / カラースペース / ビット数 モニター情報 ・インターフェース / 対応解像度
現在の設定 現在の設定状態を表示します。	表示される情報は、入力ソースに応じて異なります。 ・選択ソース / ネーム / サウンドモード / 入力モード / デコードモード / デジタルオーディオ端子の割り当て / ビデオセレクト

画面表示の例

- 状態表示画面
入力ソース切り替え時



- 音量調節時



状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時に、一時的に操作の状態を表示します。



INFO を押すと、現在のソース名、音量およびサウンドモード名などを画面下側に表示します。

ご注意

コンピューター解像度（例：VGA）の映像または一部の 3D ビデオコンテンツの再生中は、状態表示画面を表示できません。

セットアップロック

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定した内容を変更できないようにロックします。

設定項目	設定内容
セットアップロック	オン ：設定した内容をロックします。 オフ ：設定した内容をロックしません。  設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。 ご注意 “セットアップロック”を“オン”に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“Setup Lock”を表示します。 セットアップメニュー操作

情報編

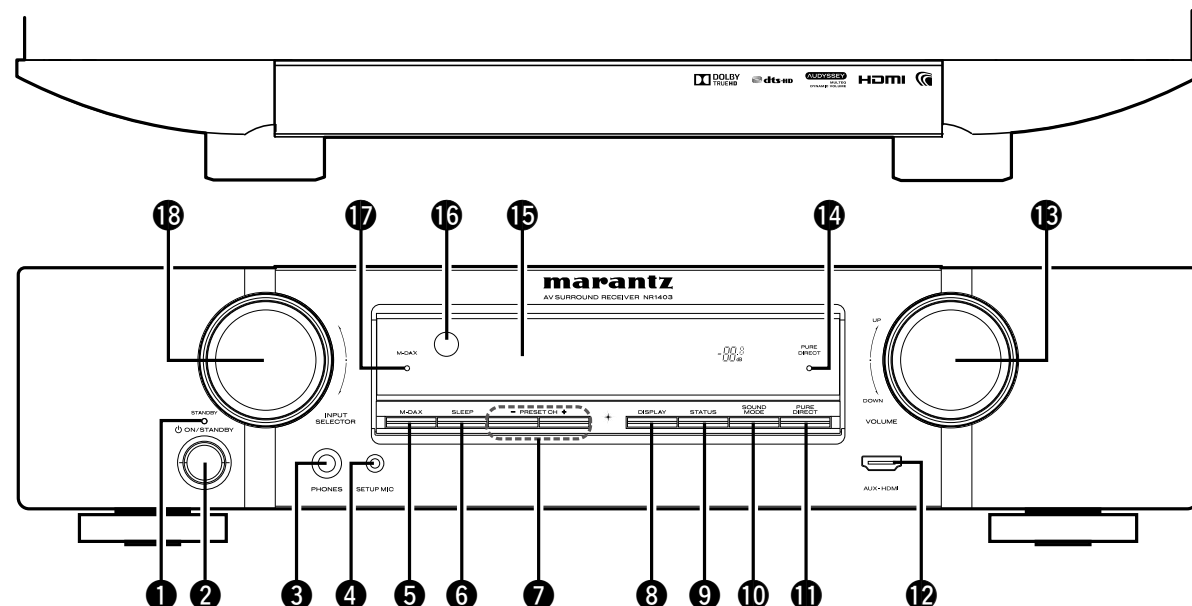
ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

- 各部の名前  [83 ページ](#)
- その他の情報  [88 ページ](#)
- 故障かな？と思ったら  [95 ページ](#)
- 保証と修理について  [98 ページ](#)
- 主な仕様  [99 ページ](#)
- 索引  [100 ページ](#)

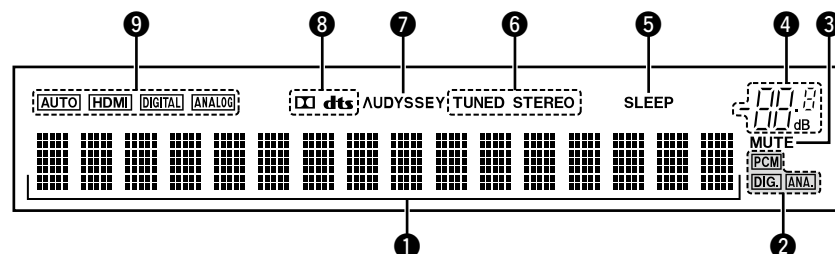
各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページをご覧ください。



- | | | |
|---|--|---|
| ① STANDBY表示 (31)
【STANDBY 表示の状態について】 <ul style="list-style-type: none">•電源オン：オフ•通常のスタンバイ時：赤色•“HDMI コントロール” (69 ページ) の設定が“オン”のとき：オレンジ色 | ④ セットアップマイク端子 (SETUP MIC) (25) | ⑬ 主音量調節つまみ (VOLUME) (32) |
| ② 電源ボタン (ON/STANDBY) (31)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。 | ⑤ M-DAXボタン (65) | ⑭ ピュアダイレクト表示 (PURE DIRECT) (42) |
| ③ ヘッドホン端子 (PHONES)
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカー端子から音が出なくなります。 | ⑥ スリープタイマーボタン (SLEEP) (54) | ⑮ ディスプレイ (84) |
| ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。 | ⑦ チューナープリセットチャンネルボタン (PRESET CH +/-) (37) | ⑯ リモコン受光部 (87) |
| | ⑧ ディスプレイボタン (DISPLAY) (80) | ⑰ M-DAX表示 (65) |
| | ⑨ ステータスボタン (STATUS) (81) | ⑱ 入力ソース切り替えつまみ (INPUT SELECTOR) (31) |
| | ⑩ サウンドモードボタン (SOUND MODE) (41) | |
| | ⑪ ピュアダイレクトボタン (PURE DIRECT) (41, 42) | |
| | ⑫ AUX-HDMI入力端子 (13) | |



① インフォメーションディスプレイ

入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

② 入力信号表示

③ ミュート表示

ミュート中に点灯します (43 32 ページ)。

④ 主音量表示

⑤ スリープタイマー表示

スリープタイマーを設定しているときに点灯します (43 54 ページ)。

⑥ チューナー受信モード表示

入力ソースが“TUNER”のとき、放送局の受信状態により点灯します。

STEREO: FM モードで、アナログステレオ放送を受信したときに点灯します。

TUNED: 放送を受信したときに点灯します。

⑦ AUDYSSEY®表示

“MultEQ®” (43 66 ページ)、 “Dynamic EQ” (43 66 ページ) または “Dynamic Volume” (43 67 ページ) の設定が“オン”のときに点灯します。

⑧ デコーダー表示

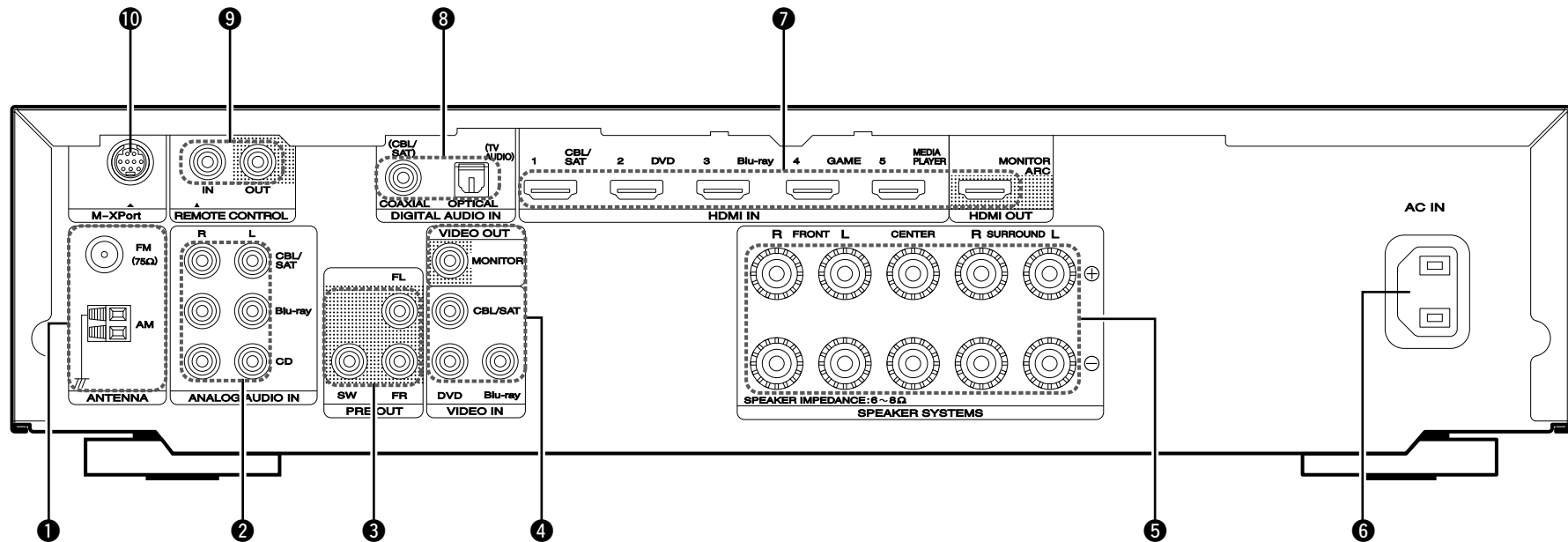
Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

⑨ 入力モード表示

各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します (43 73 ページ)。

リアパネル

詳しい説明については、()内のページをご覧ください。



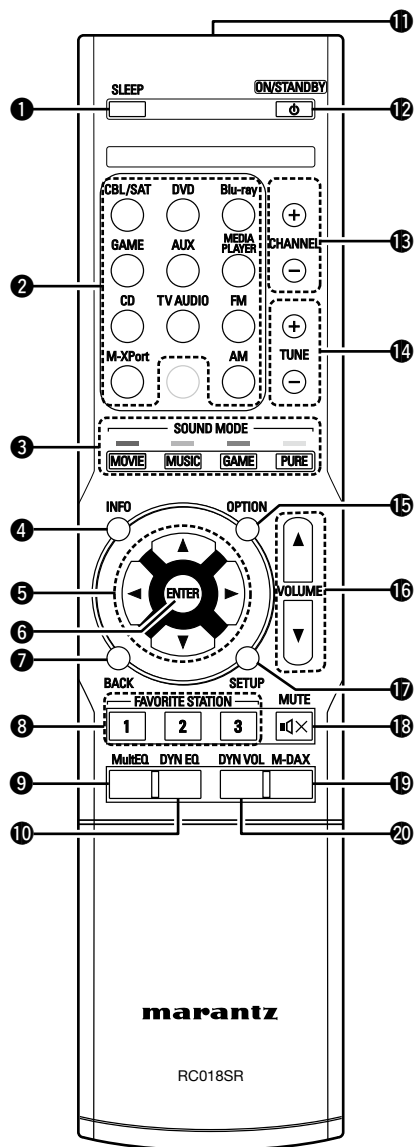
- ① FM/AMアンテナ端子 (ANTENNA)..... (21)
- ② アナログ音声端子
(ANALOG AUDIO IN)..... (17, 19, 20)
- ③ プリアウト端子 (PRE OUT)..... (49, 50, 51)
- ④ ビデオ端子
(VIDEO IN/VIDEO OUT)..... (16, 17, 18, 19)
- ⑤ スピーカー端子 (SPEAKER SYSTEMS)..... (49, 50)
- ⑥ ACインレット (AC IN) (23)
- ⑦ HDMI端子 (12, 13)
- ⑧ デジタル音声端子
(DIGITAL AUDIO IN)..... (16, 17, 18, 19, 20)
- ⑨ リモートコントロール端子
(REMOTE CONTROL) (52)
- ⑩ M-XPort端子 (22)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

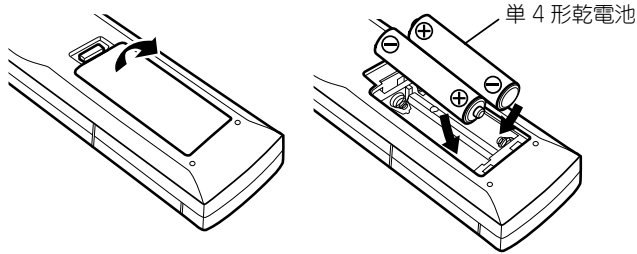
各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページをご覧ください。



- ① スリープタイマーボタン
(SLEEP) (54)
- ② 入力ソース選択ボタン (31)
- ③ サウンドモードボタン
(SOUND MODE) (41, 42)
 - ムービーボタン(MOVIE)
 - ミュージックボタン(MUSIC)
 - ゲームボタン(GAME)
 - ピュアダイレクトボタン(PURE)
- ④ インフォメーションボタン
(INFO) (81)
- ⑤ カーソルボタン(△▽◀▶) (60, 62, 68, 71, 75, 79)
- ⑥ エンターボタン(ENTER) (60, 62, 68, 71, 75, 79)
- ⑦ バックボタン(BACK) (62, 68, 71, 75, 79)
- ⑧ お気に入り登録ボタン
(FAVORITE STATION 1~3) (33)
- ⑨ MultEQ[®]ボタン (33, 34)
- ⑩ Dynamic EQボタン(DYN EQ) (66)
- ⑪ リモコン信号送信窓 (87)
- ⑫ 電源操作ボタン
(ON/STANDBY ◻) (31)
- ⑬ チャンネルボタン
(CHANNEL +, -) (37)
- ⑭ チューニングボタン
(TUNE +, -) (33, 34)
- ⑮ オプションボタン
(OPTION) (34)
- ⑯ 音量ボタン(VOLUME +, -) (32)
- ⑰ セットアップボタン(SETUP) (62, 68, 71, 75, 79)
- ⑱ ミューティングボタン
(MUTE ㊦) (32)
- ⑲ M-DAXボタン (65)
- ⑳ Dynamic Volumeボタン(DYN VOL) (67)

乾電池の入れかた

- ① 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。
- ② 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



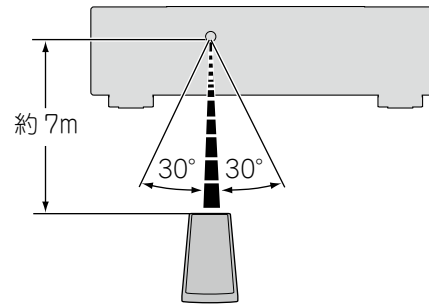
- ③ 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
 - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D視聴用メガネ、3D信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている3D映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは3D通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

その他の情報

- ❑ 登録商標について ([88 ページ](#))
- ❑ サラウンド ([89 ページ](#))
- ❑ 映像信号とモニター出力の関係 ([92 ページ](#))
- ❑ 用語の解説 ([93 ページ](#))

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。(順不同)



本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®, Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。“Dolby”、ドルビー、“Pro Logic” およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,956,674 号、5,974,380 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS-HD のロゴ、シンボル、DTS-HD は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. © DTS, Inc. 著作権所有。



HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。

◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカーの構成”([p.76](#))の設定により出力するチャンネルが異なります。

サウンドモード (p.41)	チャンネル出力				サラウンドパラメーター(p.63)			
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サブウーハー	ホームシアター-EQ (p.63)	ラウドネス マネージメント *2 (p.63)	ダイナミックレンジ圧縮 *3 (p.63)	LFE *4 (p.63)
DIRECT/PURE DIRECT (2 チャンネル)*1	○			◎*5		○	○	
DIRECT/PURE DIRECT (マルチチャンネル)*1	○	◎	◎	◎		○	○	○
STEREO	○			◎		○	○	○
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	○			○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	○			○
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	◎	○*6	○	○	
DOLBY PRO LOGIC	○	◎	◎	◎	○	○	○	
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	○		○	○
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	○		○	○
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	○	○	○	○
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	○*7	○	○	
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	○		○	○
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	○		○	○
DTS-HD	○	◎	◎	◎	○		○	○
DTS Express	○	◎	◎	◎	○		○	○
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎		○	○	○
VIRTUAL	○			◎		○	○	○

*1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。

*2 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。

*3 この項目は、Dolby Digital または DTS 信号を再生時に選択できます。

*4 この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD-Audio 信号を再生時に選択できます。

*5 メニューの“サブウーハーモード”([p.76](#))の設定が、“LFE+ メイン”のときに、サブウーハーから音声を出力します。

*6 サウンドモードが“PLII Movie”のときに設定できます。

*7 サウンドモードが“DTS NEO:6 Cinema”のときに設定できます。

サウンドモード (41 ページ)	サラウンドパラメーター(63 ページ)				トーン コントロール *8 (64 ページ)	Audyssey *9 (66 ページ)			M-DAX *11 (65 ページ)
	PRO LOGIC II Music モードのみ			NEO:6 Music モードのみ		MultEQ® (66 ページ)	Dynamic EQ *10 (66 ページ)	Dynamic Volume *10 (67 ページ)	
	パノラマ (63 ページ)	ディメンション (63 ページ)	センター幅 (63 ページ)	センターイメージ (63 ページ)					
DIRECT/PURE DIRECT (2 チャンネル)*1									
DIRECT/PURE DIRECT (マルチチャンネル)*1									
STEREO					○	○	○	○	○
MPEG2 AAC					○	○	○	○	
MULTI CH IN					○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II	○	○	○		○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC	○	○	○		○	○	○	○	○
DOLBY DIGITAL					○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus					○	○	○	○	
DOLBY TrueHD					○	○	○	○	
DTS NEO:6				○	○	○	○	○	○
DTS SURROUND					○	○	○	○	
DTS 96/24					○	○	○	○	
DTS-HD					○	○	○	○	
DTS Express					○	○	○	○	
MULTI CH STEREO					○	○	○	○	○
VIRTUAL					○	○	○	○	○

*1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。

*8 メニューの“Dynamic EQ”([66 ページ](#))の設定が“オン”のときは、この項目を設定できません。

*9 入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。

*10 メニューの“MultEQ®”([66 ページ](#))の設定が“オフ”または“マニュアル EQ”のとき、この項目を設定できません。

*11 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

□入力信号の種類と対応するサウンドモード

この表は、各サウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認の上、サウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

- お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
- 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード (41 ページ)	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																		
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG2 AAC		
			PCM (マルチ チャンネル)	PCM (2 チャン ネル)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグあり)	DTS ES MTRX (フラグあり)	DTS (5.1 チャン ネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグあり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグなし)	DOLBY DIGITAL (5.1 チャン ネル)	DOLBY DIGITAL (2 チャン ネル)	AAC (5.1 チャン ネル)	AAC (2 チャン ネル)	AAC (1+1 チャン ネル)
DTS SURROUND					●	●														
DTS-HD MSTR					●															
DTS-HD HI RES						●														
DTS SURROUND								○	○	●										
DTS 96/24											●									
DTS EXPRESS							●													
DTS NEO:6 CINEMA		○		○													○		○	
DTS NEO:6 MUSIC		○		○													○		○	
DOLBY SURROUND												●								
DOLBY TrueHD												●								
DOLBY DIGITAL+													●							
DOLBY DIGITAL														○	●	●				
DOLBY PRO LOGIC II MOVIE		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC		○		○													○		○	
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN			●																	
MPEG2 AAC																				
MPEG2 AAC																		●		●
DIRECT																				
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION																				
MULTI CH STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

映像信号とモニター出力の関係

入力 \ 出力		HDMI(デジタル)		VIDEO(アナログ)	
HDMI (デジタル)	VIDEO (アナログ)	映像	メニュー	映像	メニュー
×	×	×	メニュー表示のみ	×	×
×	○			○ <VIDEO>	
○	×	○ <HDMI>	○ (HDMI)	×	
○	○			○ <VIDEO>	

○ : 映像入力あり

× : 映像入力なし

○ < > : < > 中の入力信号を出力します。

× : 映像出力なし

○ () : () 内の映像にスーパーインポーズ

× () : () 内の映像のみ出力

ご注意

- 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度(例：VGA)の映像を再生中にメニューを操作すると、再生中の映像がメニュー画面に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 本機は 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度(例：VGA)の映像を再生中は、状態表示画面を表示しません。

A

A2DP 規格

A2DP は、ケーブルの代わりに無線通信を使用する Bluetooth の車載機器向けや AV 機器向けに定められたプロファイルの 1 つです。

Adobe RGB color, Adobe YCC601 color

Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

Audyssey Dynamic EQ®

Audyssey Dynamic EQ® は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Audyssey Dynamic EQ® は、Audyssey MultEQ® 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®

Audyssey Dynamic Volume® は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。

また、Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Dynamic EQ® の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ® は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。Audyssey MultEQ® は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

B

Bluetooth

携帯情報機器などで数 m 程度の機器間接続に使われる短距離無線通信技術の一つです。ノートパソコンや PDA、携帯電話などをケーブルを使わずに接続し、音声やデータをやりとりすることができます。

D

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB の各色を 8 ビット (256 階調) ずつで表現するところを、10 ビット (1024 階調)、12 ビット (4096 階調)、16 ビット (65536 階調) で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル (FL, FR, C) とサラウンド 2 チャンネル (SL, SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。

CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。

サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz~20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリットサラウンド音声フォーマットです。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps~256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS NEO:6™ Surround

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した“DTS NEO:6 Cinema”と、音楽再生に適した“DTS NEO:6 Music”があります。

H**HDCP**

機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

L**LFE**

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M**MP3 (MPEG Audio Layer-3)**

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) は、MPEG (Moving Picture Experts Group) により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

S**sYCC601 color**

“x.v.Color”同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

W**WMA(Windows Media Audio)**

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

X**x.v.Color**

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

あ行**オートリッパシク**

オートリッパシク機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

さ行**サンプリング周波数**

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことでΩ(オーム)という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

た行**ダイナミックレンジ**

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行**プログレッシブ(順次走査)**

映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

ペアリング

ペアリングとは、2 台の Bluetooth デバイスの接続設定に必要な操作です。ペアリングをおこなうことによって、Bluetooth 機器同士が互いにアクセスできるようになります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

故障かな？と思ったら

□ 各接続は正しいですか

□ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

□ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。

なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	- コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 - 保護回路がはたらいています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5～10秒後に再びコンセントに差し込んでください。	31 94
電源が自動的にスタンバイに切り替わる。	- スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れるか、スリープタイマーの設定を変更してください。 - 操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が作動します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。	54 80
ディスプレイの表示が消える。	メニューの“ディスプレイ”を“消灯”以外の設定にしてください。	80
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約2秒間隔で、赤色に点滅している。	- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 - 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	-
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約0.5秒間隔で、赤色に点滅している。	- 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 - スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	48 48
電源を入れても、電源表示が約0.5秒間隔で、赤色に点滅している。	本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	-
本機が正しく動作しない。	マイコンを初期化してください。	97

【HDMI】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声出力されない。	- HDMI 端子の接続を確認してください。 - HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI 音声出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。 - HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの“HDMI 音声出力”の設定を“TV”に設定してください。	13 69 69
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	- HDMI 端子の接続を確認してください。 - 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 - テレビが著作権保護 (HDCP) に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	13 13, 31 14
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 - 電源のオン / オフ - 音声出力する機器の切り替え - 音量の調節 - 入力ソースの切り替え	メニューの“HDMI コントロール”を“オフ”に設定してください。また、本機の電源オフを HDMI コントロール対応機器と連動させない場合は、メニューの“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定してください。	53, 69

【映像】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
映像が映らない。	- 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 - 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	12, 16 -
メニュー画面が表示されない。	メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。	-

【音声】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
音が出ない。	- すべての機器の接続を確認してください。 - スピーカーの接続とスピーカー構成の設定を確認してください。 - 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 - 主音量を適切な大きさに調節してください。 - ミュート(消音)モードを解除してください。 - 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 - デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 - 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。	12 、 13 、 16 、 17 、 18 、 19 、 20 、 21 、 22 49 、 50 、 51 - 32 32 31 73 83
音量が上がらない。	- 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。 - 本機の出力端子に接続している外部機器の電源が切れている可能性があります。接続している外部機器の電源を確認してください。	65 -
サラウンドスピーカーから音が出ない。	SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	-
サブウーハーから音が出ない。	- サブウーハーの接続を確認してください。 - サブウーハーの電源を入れてください。 - メニューの“スピーカーの構成”⇒“サブウーハー”を“有り”に設定してください。 - メニューの“スピーカーの構成”⇒“フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出ない場合があります。	49 、 50 、 51 - 76 76
DTS 音声出力されない。	メニューの“デコードモード”を“オート”または“DTS”にしてください。	74
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声出力されない。	HDMI で接続してください。	13

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
Dolby PLII モードや DTS NEO:6 モードが選択できない。	- メニューの“スピーカーの構成”⇒“センター”または“サラウンド”を“無し”以外に設定しているか確認してください。スピーカーシステムが 2.0/2.1 チャンネルの場合は選択できません。 - ヘッドホン使用時は、Dolby PLII または DTS NEO:6 を選択できません。	76 -
Audyssey MultEQ [®] 、Audyssey Dynamic EQ [®] および Audyssey Dynamic Volume [®] が選択できない。	- サウンドモードを“DIRECT”または“PURE DIRECT”以外に切り替えてください。 - ヘッドホン使用時は、Audyssey MultEQ[®]、Audyssey Dynamic EQ[®] および Audyssey Dynamic Volume[®] を選択できません。	41 、 42 -
Audyssey Dynamic EQ [®] および Audyssey Dynamic Volume [®] が選択できない。	Audyssey[®] セットアップを実行してください。	24
“M-DAX”が選択できない。	- アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生は“M-DAX”を使用することができません。 - サウンドモードを“DIRECT”または“PURE DIRECT”以外に切り替えてください。	65 41 、 42

【FM/AM チューナー】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	- アンテナの向きや位置を変えてください。 - 本機から AM ループアンテナを離してください。 - FM 屋外アンテナを使用してください。 - アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	21 21 21 21

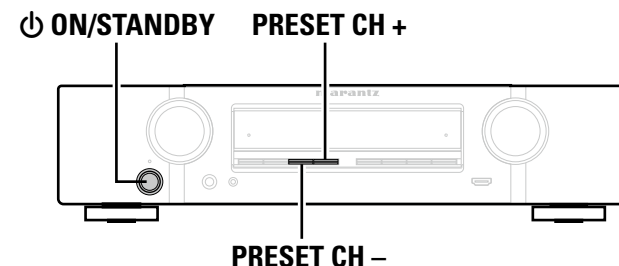
症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
ワイヤレスレシーバー(RX101)を接続時、音声が出力されない。	Bluetooth 機器とワイヤレスレシーバー(RX101)の間で、正しくペアリングされているか確認してください。	22 、 93 、 94

【リモコン】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	- 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 - リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 - 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 - 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 - 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	87 87 87 87 87

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。



- 1 **ON/STANDBY** を押して、電源を切る。
- 2 **PRESET CH +** と **PRESET CH -** を同時に押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 3 ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。



手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 1 からやり直してください。

保証と修理について

□保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

□修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

□依頼の際に

連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

□補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

□お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

□ オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力：	フロント： 50W+50W(負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%) センター： 50W(負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%) サラウンド： 50W+50W(負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.08%)
-------	--

実用最大出力：	フロント： 80W+80W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA) センター： 80W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA) サラウンド： 80W+80W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10% JEITA) 6～8 Ω
---------	---

出力端子：

• アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	130 mV/47 k Ω
周波数特性：	10Hz～100kHz：+1、-3dB(DIRECT モード時)
S/N 比：	98dB(IHF-A、DIRECT モード時)

□ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz：0、-3dB

□ チューナー部

• FM 部

受信周波数範囲：	76.0MHz～90.0MHz
実用感度：	1.2 μV(12.8dBf)
S/N 比：	モノ：70dB(IHF-A、DIRECT モード時) ステレオ：67dB(IHF-A、DIRECT モード時)
ひずみ率	モノ：0.7%(1kHz、100% 変調時) ステレオ：1.0%(1kHz、90% 変調時)

• AM 部

受信周波数範囲：	522kHz～1629kHz
実用感度：	18 μV

□ 総合

電源：	AC 100V、50/60Hz
消費電力：	180W(電気用品安全法による)
スタンバイ時の消費電力：	0.2W
CEC スタンバイ時の消費電力：	0.5W

* JEITA：(社)電子情報技術産業協会(略称：JEITA)が制定した規格です。

- 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

- 本機は国内仕様です。必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。



索引

数字

2.1 チャンネル	50
3D	14
5.1 チャンネル	47, 49

A

A2DP	22, 93
Adobe RGB color, Adobe YCC601 color	93
AM 室内アンテナ	21
ARC	11
Audyssey	66
Audyssey Dynamic EQ [®]	66, 93
Audyssey Dynamic Volume [®]	67, 93
Audyssey MultEQ [®] XT	66, 93
Audyssey [®] セットアップ	24

B

Bluetooth	22, 93
-----------	--------

C

Content Type	14
--------------	----

D

Deep Color	14, 93
Dolby	
Dolby Digital	45, 93
Dolby Digital Plus	45, 93
Dolby Pro Logic	45
Dolby Pro Logic II	45, 93
Dolby TrueHD	45, 93
DTS	93
DTS 96/24	45, 93
DTS Digital Surround	93
DTS Express	45, 93
DTS-HD	45, 93
DTS-HD High Resolution Audio	93
DTS-HD Master Audio	94
DTS NEO:6™ Surround	45, 94
Dynamic EQ	66
Dynamic Volume	67

F

FM/AM	33
FM 室内アンテナ	21

H

HDCP	14, 94
HDMI	10, 14, 94
HDMI 音声出力	69
HDMI コントロール	53, 69
HDMI 設定	69

L

LFE	63, 94
-----	--------

M

M-DAX	65
MP3	94
MPEG	94
MultEQ [®] XT	66

S

sYCC601 color	94
---------------	----

T

TV フォーマット	70
-----------	----

W

WMA	94
-----	----

X

x.v.Color	94
-----------	----

い

イコライザーの調節	67
一般	79

え

映像の選択	74
エラーメッセージについて (Audyssey [®] セットアップ)	29

お

オーディオ	62, 70
オーディオディレイ	65
オーディオ入力端子の選択	73
オートスタンバイ	80
オートプリセット	36
オートリップシンク	69, 94
音量	65, 69
音量の上限	65
音量の表示	69

か

カーブコピー	67
--------	----

き

距離	77
----	----

く

クロスオーバー周波数	78
------------	----

け

ケーブル	
HDMI ケーブル	12, 13
オーディオケーブル	15
サブウーハーケーブル	49, 50, 51
スピーカーケーブル	49, 50, 51
同軸デジタルケーブル	15
光伝送ケーブル	15
ビデオケーブル	15
結露	5
言語	80

こ

高音	64
故障かな？と思ったら	95

さ

再生	
CD プレーヤー	32
DVD プレーヤー	32
FM/AM	33
オートサラウンド	42
オリジナルリスニングモード	45
ステレオ	45
ダイレクト	41, 45
ピュアダイレクト	42
ブルーレイディスクプレーヤー	32
再生画面の表示	70
サウンドモード	41, 89
サブウーハー	64
サブウーハーの設定	25
サブウーハーレベル	64
サラウンドパラメーター	63
サンプリング周波数	94

し

主音量を調節する	32
使用ソースの選択	73
情報	70, 81
オーディオ	81
現在の設定	81
ビデオ	81
情報の表示	70

す

スタンバイ時の HDMI 入力	69
スピーカー	75
接続	48
設置	47
設定	24
スピーカーインピーダンス	48, 94
スピーカーの構成	76
スピーカーの選択方法	67
スリープタイマー	54

せ

接続	
CD プレーヤー	20
DVD プレーヤー	13, 18
FM/AM	21
HDMI	10
衛星チューナー	17
ケーブルテレビチューナー	17
ゲーム機	13
スピーカー	48
セットトップボックス	13, 17
テレビ	12, 16
電源コード	23
ビデオカメラ	13
ブルーレイディスクプレーヤー	13, 19
メディアプレーヤー	13
ワイヤレスレシーバー	22
セットアップロック	81
センターイメージ	63
センター幅	63

そ

ソースレベル	73
--------	----

た	
ダイアログ	64
ダイアログレベル	64
ダイナミックレンジ	94
ダイナミックレンジ圧縮	63
ダイレクトチューニング	35
ダウンミックス	94
ち	
チューニングモード	34
て	
低音	64、76
ディスプレイ	84
ディメンション	63
デコードモード	74
デジタルオーディオ端子の割り当て	72
デュアルバックアップメモリー機能	55
電源オン時の音量	65
と	
登録商標	88
トーンコントロール	64
に	
入力信号	91
入力ソース	71
入力ソース名の変更	73
入力ソースを選ぶ	31
入力モード	73
は	
パーソナルメモリープラス機能	57
バイリンガル	65
パノラマ	63
パラメーター確認	30
パワーアンプ	51
パワーオフコントロール	69
ひ	
ビデオ	68
ビデオセレクト	74
表示	80
表示方法	65

ふ	
フォーマット	70
付属品	5
プリセットスキップ	39
プリセットに登録	37
プリセットネーム	38
プログレッシブ	94
フロントキーロック機能	55
フロントディスプレイ	80
フロントパネル	83

へ	
ペアリング	94
ヘッドホン	83

ほ	
ホームシアターEQ	63
保護回路	94
本機の電源を入れる	31

ま	
マイコンの初期化	97
マニュアルEQ	67
マニュアルセットアップ	76

み	
ミュートイング	32
ミュートイングレベル	65

め	
メニュー一覧	58

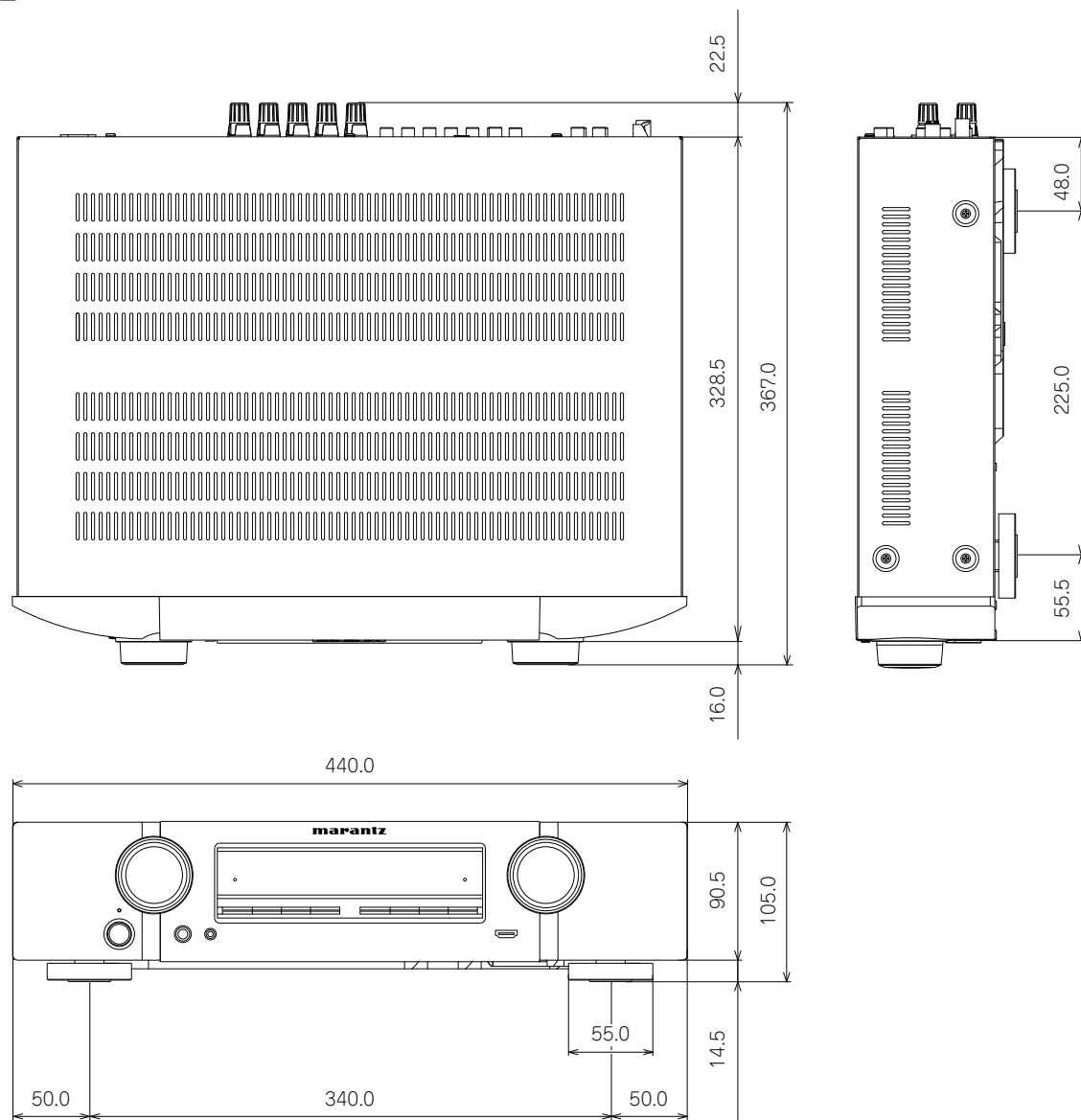
も	
文字	61
文字入力	61

ら	
ラウドネスマネージメント	63
ラストファンクションメモリー	57

り	
リアパネル	85
リスニングポイント	24
リスニングモード	41
リファレンスレベルオフセット	66
リモートロック機能	56
リモコン	86
乾電池の入れかた	87
れ	
レベル	77

寸法

単位：mm



質量：8.3 kg

marantz®

お客様ご相談センター

☎ 03-3719-3481

【電話番号はお間違えないようにおかけください。】

受付時間 9:30～12:00、13:00～17:00
(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)

修理に関するお問い合わせは、
添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」をご覧ください。

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。

<http://www.marantz.jp>